



静岡県富士山世界遺産センター
年報 2025.4－2026.3

● 目 次 ●

館長挨拶	1
1 概 要	
1-1 沿革	2
1-2 写真で見る2025.4-2026.3	4
2 活動状況	
2-1 永く守る	
2-1-1 静岡県認定富士山世界遺産ガイド養成	8
2-1-2 サポートボランティア制度	10
2-1-3 富士山安全対策	11
2-2 楽しく伝える	
2-2-1 常設展示リニューアル	12
2-2-2 企画展	14
2-2-3 アトリウム展示活動	22
2-2-4 教育旅行受入	23
2-2-5 出前講座	25
2-2-6 館内講座	28
2-2-7 世界遺産セミナー	30
2-2-8 富士山世界遺産コラム	31
2-2-9 ホームページ・SNS・YouTubeによる情報発信	32
2-2-10 メール会員	33
2-3 広く交わる	
2-3-1 地域貢献・広域連携（富士山ネットワーク推進委員会）	34
2-3-2 視察受入	35
2-4 深く究める	
2-4-1 巡礼路調査	36
2-4-2 研究活動	38
2-4-3 富士山学	47
2-4-4 資料収集	48
3 施設・組織・予算	
3-1 施設	55
3-2 組織	57
3-3 予算	58
4 資 料	
4-1 来館者数データ	59
4-2 2025年度の休館日	59
4-3 公式オリジナルグッズ	60
4-4 報道実績	62
4-5 来館者アンケート結果	64
4-6 条例・規則	68

館長挨拶

ご挨拶

令和7年1月に静岡県富士山世界遺産センターの館長に就任し、もうすぐ2年が経過いたします。その間、コロナ禍を経て落ち込んだ来館者も徐々に回復しており、令和7年度は、世界各地から1年間で約20万人の方をお迎えすることができました。

これは、多くの方が富士山に関心をもっていただいた証だと、ありがたく思っています。

昨年度より夏の富士登山では入山料を徴収するようになるなど、富士山との関わり方も徐々に変化しておりますが、その中でも、変わらぬ富士山の持つ普遍的な価値を後世に継承していくことは大変重要な仕事だと考えております。

当センターは、富士山を後世に守り伝えるための拠点施設として、平成29年12月に開館してから、もうすぐ9年、来年度には開館10周年を迎えますが、その間変わらず、芸術の源泉・信仰の対象としての富士山を深く研究し、その美しさと伝統を広く伝えるとともに、その比類ない価値を永く守り続けていくため活動しております。

ここに、センターの令和7年度の活動を年報という形で取りまとめ、富士山という偉大な存在の持つ価値を、次の時代に繋いでいくための記録の一環と致しました。御活用いただければ幸いに存じます。

令和8年9月

静岡県富士山世界遺産センター

館長 稲葉 信子



1 概要

1-1 沿革

2011年10月	基本構想策定委員会を設置
2012年 3 月	基本構想を策定
2012年11月	基本計画策定アドバイザーを設置
2013年 3 月	基本計画を策定
2013年 6 月	世界文化遺産登録決定
2013年 8 月	建設地を富士宮市宮町に決定
2014年 3 月	設計者を株式会社坂茂設計事務所へ決定、展示基本計画を策定
2015年 3 月	実施設計完了
2016年 3 月	建築工事着手
2017年 2 月	2017年12月23日開館を公表
2017年 7 月	建築工事完成
2017年10月	設置管理条例議決、展示工事完成
2017年12月	12月22日開館記念式典開催、12月23日開館
2018年 2 月	来館者10万人達成
2018年 3 月	シアター新番組「地の巻」上映開始
2018年 7 月	来館者30万人達成
2018年12月	来館者50万人達成
2019年 1 月	3階「育む山」展示リニューアル
2019年 3 月	シアター新番組「宙の巻」上映開始
2019年 8 月	富士山世界遺産センターふじっぴー誕生
2019年11月	三笠宮彬子女王殿下 地方事情御視察のため御来館
2020年 3 月	富士山世界遺産センター公式ハンドブック発行
2020年 4 月	新型コロナウイルス感染症拡大のため臨時休館（4月14日から5月31日まで）
2021年 2 月	2月20日観覧料キャッシュレス決済導入、2月28日来館者100万人達成
2021年11月	研究・収蔵スペースの増築工事完成
2022年 4 月	ミュージアムショップ・カフェリニューアル
2022年 9 月	高円宮妃久子殿下御来館
2022年12月	12月13日開館5周年記念式典・コンサート開催、12月23日開館5周年
2023年 7 月	7月1～3日富士山世界遺産登録10周年記念国際シンポジウム
2024年12月	12月3日来館者150万人達成

● 基本コンセプト及び機能

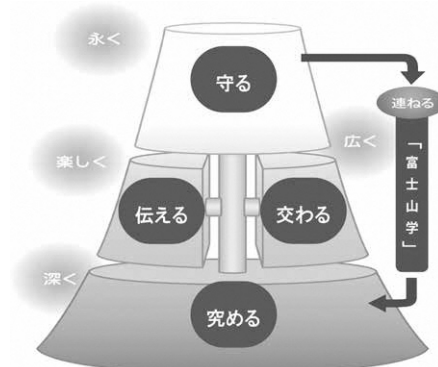
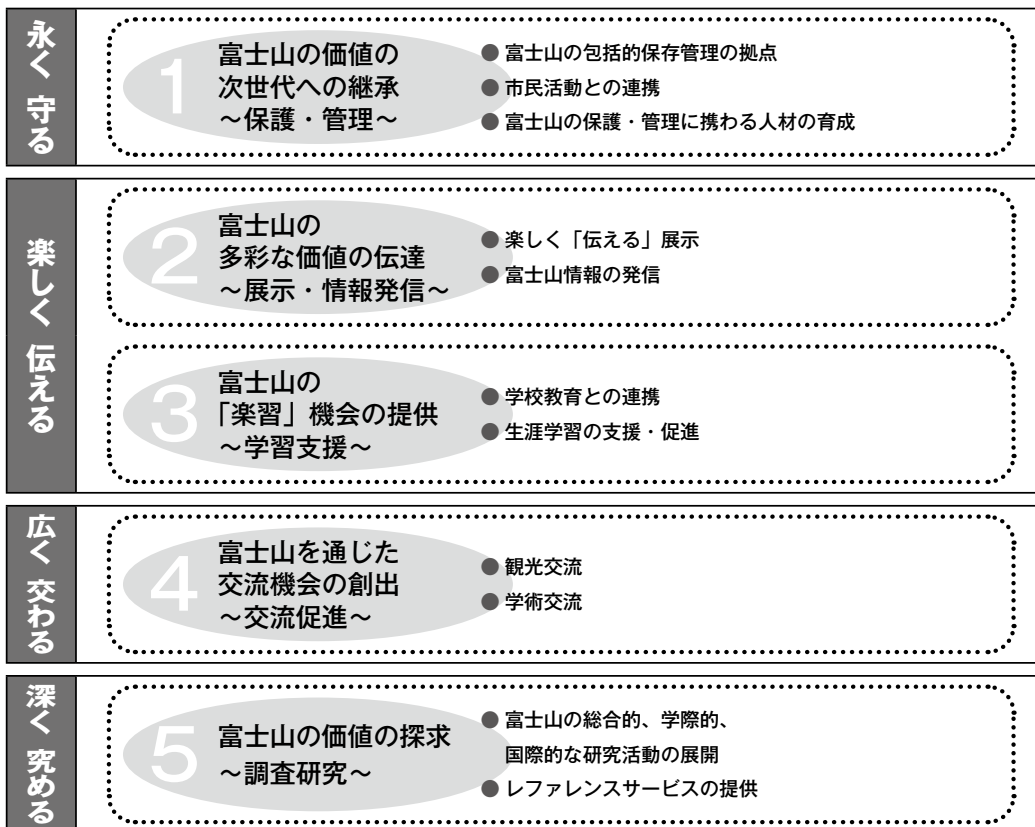
静岡県富士山世界遺産センターは、世界遺産条約第5条（e）の趣旨に則り、富士山が持つ顕著な普遍的価値を次世代に継承し、「永く守る」拠点施設として整備された。

富士山を「永く守る」ためには、資産を適切に保護・管理するとともに、多くの人々が世界文化遺産としての富士山の価値について理解を深めることが必要となる。

そのため、富士山を「永く守る」活動に加え、富士山の価値を「楽しく伝える」活動やセンターの活動を通じて人々が「広く交わる」機会を創出する活動を展開する。さらに、これら「永く守る」「楽しく伝える」「広く交わる」の活動内容を奥深いものとするため、富士山の自然や歴史、文化等を「深く究める」活動を展開する。

また、他の研究機関等と連携した「深く究める」活動の成果及びセンターの諸活動を「連ねる」ことで、「富士山学」を体系化し、世界文化遺産「富士山」の価値を探究する活動を継続して実施する。

〈基本コンセプト及び機能概念図〉



1-2 写真で見る2025.4-2026.3

令和7年度世界遺産セミナー
世界遺産としての京都と富士山を再考する
日程：2025年11月9日



企画展
富士山と曾我物語
ーその絵画化をめぐるー
会期：2025年4月26日～6月8日



企画展

“日本三霊山” 火山の崩れ
 ー富士山・立山・白山の災害と砂防ー
 会期：2025年7月12日～9月15日



特別展

シリーズ江戸文化のなかの富士山Ⅷ
 大御所時代
 ー富士山絵画の頂(いただき)からみる
 徳川家斉の半世紀ー
 会期：2025年10月4日～11月9日



令和7年度特別展開催記念
スペシャルトーク&ギャラリートーク
天下泰平 ―徳川の平和―
日程：2025年10月5日



企画展
信仰の道から観光の道へ
―須山口登山道・御殿場口登山道調査速報展―
会期：2025年12月13日～2026年2月1日



企画展

第6回 絶景・秀景

富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展

会期：2026年2月21日～3月22日



2 活動状況

2-1 永く守る

2-1-1 静岡県登録富士山世界遺産ガイド養成

1 概要

静岡県登録富士山世界遺産ガイドは、世界遺産「富士山」の顕著な普遍的価値及びその適切な保存管理について理解を深め、案内することができることを目的とし、2012年度に発足した。これまでに養成講座を10回実施し、295名が修了した。登録更新希望者を対象に2年毎に更新講座を実施し、その際の意向確認でこれまでに151名が登録を辞退・抹消（逝去含む）となり、2025年度末の登録者は144名である。

2 活動内容

- ・各構成資産における来訪者へのガイド
- ・教育機関、旅行業者等の依頼に基づいた添乗ガイド
- ・富士山をテーマとする各種講座等における講師
- ・富士山の価値や適切な保存管理の普及のための活動

3 更新講座

世界遺産ガイドとしての技量やモチベーションの維持・向上を目的として更新講座を実施している。例年、年度始めに実施計画日の中から対象者に希望調査を行い、年3～5回の更新講座を実施している。2025年度は、平成25・27年度、令和5年度登録者と、2024年度に受講予定であった平成24・26年度登録者を対象に、10月から11月にかけて5回講座を実施した。ガイドとしての技量を高める機会とするため、構成資産でガイドをしている方や、構成資産がある自治体の職員からガイドを受ける内容を中心に実施したところ、構成資産の最新の状況を知ることができ、ガイドするうえでのポイントも学ぶことができると参加者からは好評であった。

実施日	参加者数	会 場
10月23日	22名	富士（須走）浅間神社と周辺の町並み
10月25日	11名	
11月4日	7名	みほしるべ・三保松原周辺
11月8日	7名	
11月15日	16名	静岡県富士山世界遺産センター (座学「山梨県側の富士山の現状」)
2025年度更新者：63名		

4 養成講座

新たな富士山世界遺産ガイドを養成するため、2023年度に養成講座を再開した。2025年度は、10月4日、11日、18日の3日間で実施し、2024年度に未履修講座があった1名を加えて13名が修了した。



(更新講座の様子)



(養成講座の様子)

● 2-1-2 サポートボランティア制度

1 概 要

地域の人々が静岡県富士山世界遺産センターの日々の活動を支え、来館者とセンター、地域とセンターを結ぶ架け橋として活動する組織として、サポートボランティア制度を設けた。

2025年度は36名がサポートボランティアとして登録している。年齢層は高校生から70代までの幅広く、一般来館者誘導と館内イベントの補助を主に担当した。また、2024年度より、養成研修を修了した「館内登拝ガイド」認定者が、一般来館者（1～5名）に、らせんスロープの映像や展望ホールを20分程度で案内する取組を実施している。現在、「館内登拝ガイド」は、木～日曜日に配置しており、13名が登録されている。

〈サポートボランティアの概要〉

区 分	内 容	
対 象	高校生以上	
任 期	1年（令和7年4月1日～令和8年3月31日）毎年更新の意思を確認	
登録人数	36人（うち館内登拝ガイド 13人）	
業務内容	来館者対応	一般来館者誘導（スロープ、シアター誘導等）、館内ガイド（※要研修の受講）
	館内業務	館内イベント補助
	資料整理 ライブラリー補助	研究員の調査・研究に関する資料整理補助 富士山ライブラリーの司書補助
	環境美化	館外の環境整備補助、植込整備、雑草除去
条 件 等	旅費・報償費支給無し、ボランティア保険加入(県負担)、ユニフォーム支給	

● 2-1-3 富士山安全対策

1 概 要

静岡県は、山梨県と連携し、富士登山における安全確保のため、富士山須走・吉田ルート of 山頂から八合目までの登下山道の安全誘導、下山道の巡回や案内看板設置等の安全対策、八合目分岐点の道間違い対策を実施している。

2 須走・吉田ルート安全誘導員の配置

静岡県富士山世界遺産センターでは、2025年7月1日から2025年9月10日までの期間、富士山須走・吉田ルートの山頂から八合目までの登下山道の安全誘導と下山道の八合目分岐点での道間違い防止のため、延べ360人の安全誘導員を配置した。



3 富士山須走・吉田ルート下山道安全対策

静岡県富士山世界遺産センターは、2014年の富士山須走ルート下山道九合目付近での落石による事故を踏まえ、2015年以降の富士山開山期間中、須走ルート山頂～八合目区間で、案内看板の設置や、土砂・石等の埋め戻し等の巡回業務などの安全対策を実施している。



2-2 楽しく伝える

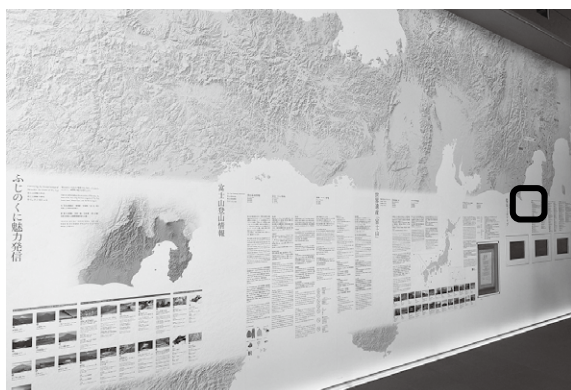
2-2-1 常設展示リニューアル

1 「アトリウム」壁面展示及びガイダンス展示『環富士山マップ』リニューアル

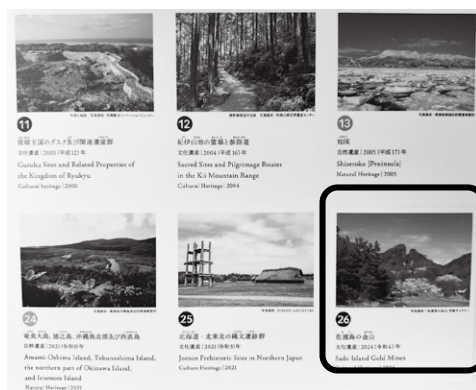
(1) 概要

「アトリウム」にある壁面展示及びガイダンス展示『環富士山マップ』について、最新の情報にアップデートした。

(2) 写真



全景



日本の世界遺産に「佐渡島の金山」を追加

富士山関連施設 Facilities related to Mount Fuji	
1 ふじのくに地球環境史ミュージアム (ふじのくに Earth and Environmental History Museum, Shizuoka)	18 静岡市立山梨博物館 (Shizuoka Municipal Yamanashi Museum - Temporarily Closed)
2 静岡市美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	19 富士山開山500年記念館 (Fujisan 500th Year Memorial Museum)
3 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	20 富士山開山500年記念館 (Fujisan 500th Year Memorial Museum)
4 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	21 山梨県立美術館 (Yamanashi Prefectural Museum)
5 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	22 山梨県立美術館 (Yamanashi Prefectural Museum)
6 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	23 山梨県立美術館 (Yamanashi Prefectural Museum)
7 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	24 山梨県立美術館 (Yamanashi Prefectural Museum)
8 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	25 山梨県立美術館 (Yamanashi Prefectural Museum)
9 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	26 山梨県立美術館 (Yamanashi Prefectural Museum)
10 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	27 山梨県立美術館 (Yamanashi Prefectural Museum)
11 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	28 山梨県立美術館 (Yamanashi Prefectural Museum)
12 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	29 山梨県立美術館 (Yamanashi Prefectural Museum)
13 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	30 山梨県立美術館 (Yamanashi Prefectural Museum)
14 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	31 山梨県立美術館 (Yamanashi Prefectural Museum)
15 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	32 山梨県立美術館 (Yamanashi Prefectural Museum)
16 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	33 山梨県立美術館 (Yamanashi Prefectural Museum)
17 静岡市立美術館 (Shizuoka City Museum of Art)	34 山梨県立美術館 (Yamanashi Prefectural Museum)

施設一覧（茶の都ミュージアム等を追加）

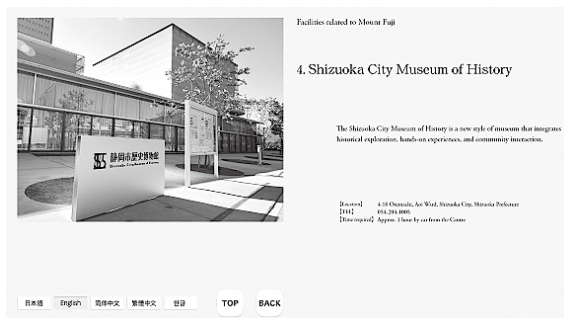
登山規制

富士山は開山期において登山規制を行っています。富士山保全、安全登山に係るルール・マナーの事前学習の修了や夜間規制時間帯に入山する場合は山小屋予約が必要、入山料の納付が義務づけられています（2026《令和8》年3月現在）。入山料は、富士山の環境保全、登山者の安全対策、登山規制に係る運営管理費等に使われています。世界の宝・富士山を後世に末長く引き継いでいくため、御協力をお願いいたします。

入山料の記載に変更



ガイダンス展示の施設追加①（5カ国語表記）



ガイダンス展示の施設追加②（5カ国語表記）

2 「登拝する山」『タイムラプス映像』 プロジェクター更新

(1) 概要

「登拝する山」の『タイムラプス映像』を投影するためのプロジェクターについて、耐用年数を超え、映像機器が正常に投影されない事象や突如映像がブラックアウトするなどの不具合が発生していた。今回特に不具合が多発していたプロジェクター4台（新品交換：2台、オーバーホール：2台）を更新した。加えて、新品に交換する際に撤去した不具合のあった2台も、予備機としてすぐに利用ができるようにオーバーホールを実施した。

(2) 写真



【更新前】タイムラプス映像（故障時）



【更新後】タイムラプス映像（正常時）

3 「荒ぶる山」『地球の中の富士山』 地球儀プロジェクター更新

(1) 概要

「荒ぶる山」の『地球の中の富士山』の地球儀内のプロジェクターについて、故障により映像が投影されなくなり「調整中」の表示をしていた。今回地球儀内のプロジェクターの更新を実施した。

(2) 写真



【更新前】地球儀内のプロジェクター故障



更新後】プロジェクター更新

● 2-2-2 企画展

○企画展

「富士山と曾我物語－その絵画化をめぐる－」

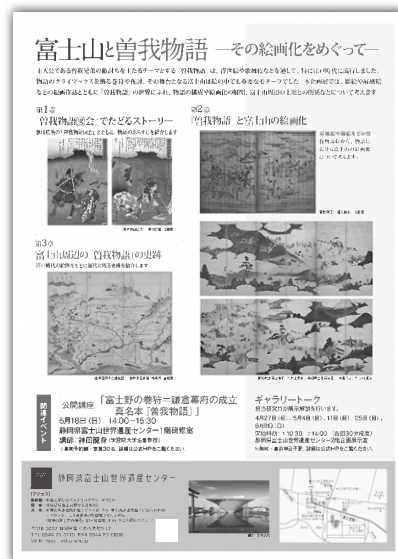
会 期 2024年4月26日（土）～6月8日（日）

観 覧 料 無料(常設展観覧料のみで観覧可)

入場者数 25,935人(期間中の常設展チケット発券枚数)

概 要

主人公である曾我兄弟の敵討ちを主たるテーマとする『曾我物語』は、浮世絵や歌舞伎など、特に江戸時代に流行を見せた。物語のクライマックスを飾る巻狩や夜討、その舞台となる富士山は絵の中でも重要なモチーフであった。本企画展では、錦絵や屏風絵などの絵画作品とともに『曾我物語』の世界にふれ、物語の構成や絵画化の展開、富士山周辺の土地との関係などについて考察した。



第1章 『曾我物語図会』でたどるストーリー

江戸時代の弘化年間（1844－48）には、歌川広重が絵を描き、柳下亭種員が絵についての場面解説を加えた錦絵の『曾我物語図会』が刊行された。本章では当時の人々が物語世界を気軽に楽しむ契機となった『曾我物語図会』の絵とともに、曾我兄弟が敵討ちを志すきっかけとなった事件や彼らの生い立ち、敵討ちを果たす展開などの概略をたどった。

第2章 『曾我物語』と富士山の絵画化

源頼朝が富士山麓で行った巻狩や曾我兄弟の敵討ちなどのエピソードは絵のモチーフとしても好まれ、多くの作品が制作された。曾我物語絵の中には富士山が描かれるものも少なくなく、印象的な画面を作り出しており、本章では江戸時代に作られた屏風絵や絵入版本、錦絵などを紹介した。

第3章 富士山周辺の『曾我物語』の史跡

江戸時代における歌舞伎や絵を通じた『曾我物語』の人気は相当なもので、富士山周辺にも曾我兄弟や工藤祐経などに関連する旧跡が残されている。本章では「吉原宿田子之浦絵図」に記される旧跡を確認するとともに、現代に残る『曾我物語』の旧跡を紹介した。

【主な展示資料】

- ・ 曾我物語図会（静岡県富士山世界遺産センター蔵）
- ・ 曾我物語図屏風（個人蔵）
- ・ 曾我物語（絵入版本）（静岡県富士山世界遺産センター蔵）

- ・ 曾我兄弟十番伐（静岡県富士山世界遺産センター蔵）
- ・ 曾我兄弟夜討之図（静岡県富士山世界遺産センター蔵）
- ・ 吉原宿田子之浦絵図（静岡県富士山世界遺産センター蔵） など

【関連イベント】

・ 公開講座

2025年5月18日（日）14:00～15:30（事前申込30名）

論題：「富士野の巻狩＝鎌倉幕府の成立—真名本『曾我物語』」

講師：神田龍身氏（学習院大学名誉教授）

・ ギャラリートーク（担当：青木慎一）

2025年4月27日（日）、5月4日（日）、5月11日（日）、5月25日（日）、6月8日（日）

午前・午後、計10回開催

○企画展

「“日本三霊山” 火山の崩れ－富士山・立山・白山の災害と砂防－」

〔主催〕静岡県富士山世界遺産センター、〔共催〕富山県立山カルデラ砂防博物館

会 期 2025年7月12日（土）～9月15日（月・祝）

入場者数 40,183人（期間中の常設展チケット発券枚数）

概 要

“日本三霊山”は優美な山容を持ち、古くから信仰の山として人々の傍にあった。それぞれに巨大な崩壊地を持つ活火山であり、大規模な災害を繰り返してきた。人々はこの“荒ぶる山”と共生するために「砂防」という技術を発達させてきた。それぞれの砂防史を紐解くと、崩れを抑えるための様々な工夫が、現代の砂防技術として引き継がれてきたことが分かる。本企画展

では、“日本三霊山”火山の生い立ちを紹介した上で、それぞれの火山で過去に発生した大規模な災害を振り返り、それを教訓として発達してきた砂防事業の歴史とその技術的特徴を解説した。

【主な出展作品】

- ・ 地質コア試料「小御岳溶岩・先小御岳溶岩」（小御岳：富士吉田）〔山梨県富士山科学研究所蔵〕
- ・ 宝永噴出物に含まれる花崗岩類岩片（御殿場市中畑）〔山梨県富士山科学研究所蔵〕
- ・ 地層剥ぎ取り試料「降下スコリア堆積物」（小山町棚頭）〔当センター蔵〕



- ・地層剥ぎ取り試料「扇状地堆積物（火山泥流）」（富士宮市星山）〔当センター蔵〕
- ・地層剥ぎ取り試料「御殿場岩屑なだれ堆積物」（小山町上野）〔当センター蔵〕
- ・地層剥ぎ取り試料「風祭川火砕流堆積物」（富士宮市山宮）〔当センター蔵〕
- ・地層剥ぎ取り試料「宝永火砕堆積物」（小山町湯船）〔当センター蔵〕
- ・溶岩「青木ヶ原溶岩」（南都留郡鳴沢村）〔当センター蔵〕
- ・画像『富士山焼砂押流荒地絵図』〔富士宮市（富士砂防事務所提供）〕
- ・画像『御中道巡り西ノ方大沢（江戸時代 参詣絵巻 富士山真景之図）』〔名著出版提供〕
- ・画像『駿河国拾九箇村狩宿北山村与上井出村秣場論裁許絵図』〔富士宮市上井出区蔵〕
- ・映像『幸田文「崩れ」－富士山大沢崩れ－（編集）』〔富士砂防事務所蔵〕
- ・映像「スラッシュ雪崩（2017.4.8発生）」（富士山源頭部（鳴沢村））〔富士砂防事務所蔵〕
- ・地形模型「富士山大沢源頭部（縮尺1／1,000）」〔富士砂防事務所蔵〕
- ・地形模型「大沢3の滝（縮尺1／200）」〔富士砂防事務所蔵〕
- ・湯川谷火山岩類（新湯付近（富山市有峰））〔富山県立山カルデラ砂防博物館蔵〕
- ・雄山花崗閃緑岩（雄山付近（立山町芦峯寺））〔富山県立山カルデラ砂防博物館蔵〕
- ・玉殿溶岩（デイスайト）（室堂付近（立山町芦峯寺））〔富山県立山カルデラ砂防博物館蔵〕
- ・材木坂溶岩（安山岩）（材木坂（立山町芦峯寺））〔富山県立山カルデラ砂防博物館蔵〕
- ・称名滝火砕流堆積物（溶結凝灰岩）〔富山県立山カルデラ砂防博物館蔵〕
- ・写真「大鷲崩れ」（富山市有峰）〔富山県立山カルデラ砂防博物館提供〕
- ・画像『土蔵破損之図（地水見聞録）』〔富山県立図書館蔵〕
- ・画像『西四ノ谷の巨石積の砂防堰堤群』〔立山砂防事務所提供〕
- ・画像『工事中の西五ノ谷（大正14年）』〔立山砂防事務所提供〕
- ・画像『直轄砂防事業の着手を求める記事』〔立山砂防事務所提供〕
- ・画像『重要文化財指定書・附書一～五（常願寺川砂防施設）』〔立山砂防事務所提供〕
- ・画像『安政五年常願寺川非常洪水山里変之模様見取図（里方図・山方図）』〔滑川市博物館蔵〕
- ・画像『赤木正雄計画：白岩砂防堰堤付近の平面図・計画断面図』〔（一社）全国治水砂防協会蔵〕
- ・映像『映像でみる立山カルデラと砂防』〔富山県立山カルデラ砂防博物館蔵〕
- ・火山弾（白山市白山）〔国立科学博物館蔵〕
- ・安山岩（ゼノリス含む）（白山市別当大崩）〔国立科学博物館蔵〕
- ・角閃石安山岩（白山市）〔石川県立自然史資料館蔵〕
- ・礫岩（花崗岩）（白山市（旧 石川郡尾口村））〔国立科学博物館蔵〕
- ・礫岩（流紋岩）（白山市（旧 石川郡白峰村））〔国立科学博物館蔵〕
- ・礫岩（ホルンフェルス）（白山市（旧 石川郡白峰村））〔国立科学博物館蔵〕
- ・礫岩（珪岩）（白山市（旧 石川郡白峰村））〔国立科学博物館蔵〕
- ・写真「百万貫の巨岩（昭和9年頃撮影）」〔白山砂防科学館提供〕
- ・河内谷分教場の半鐘（白山市白峰（旧河内谷集落））〔白山砂防科学館蔵〕
- ・画像「「手取川大水害」を伝える記事（昭和9年7月14日・7月15日）」〔勝山朝日新聞（当時）〕

【関連イベント】

・ 公開講座

7月20日（日）14:00～15:00

演題：北陸の活火山 立山・白山の災害と砂防の歴史

講師：福井幸太郎（富山県立山カルデラ砂防博物館）

8月17日（日）14:00～15:00

演題：富士砂防事務所が対策を進める土砂移動現象－大沢崩れ、スラッシュ雪崩、そして富士山噴火とリアルタイムハザードマップ

講師：中戸真一（国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所）

・ ギャラリートーク：各日 10時30分～11時00分、14時00分～14時30分

7月12日（土）・26日（土）、8月9日（土）・24日（日）、9月6日（土）・15日（月・祝）

講師：小林 淳（静岡県富士山世界遺産センター 教授）

○特別展

静岡県富士山世界遺産センター 2025年度特別展 シリーズ江戸文化のなかの富士山 8
大御所時代—富士山絵画の頂からみる徳川家斉の半世紀—

主 催 静岡県富士山世界遺産センター

特別協力 公益財団法人徳川記念財団

会 期 2025年10月4日（土）～11月9日（日）（10月21日休館）

観 覧 料 一般：700円／70歳以上：200円／大学生以下：無料（常設展観覧料含む）

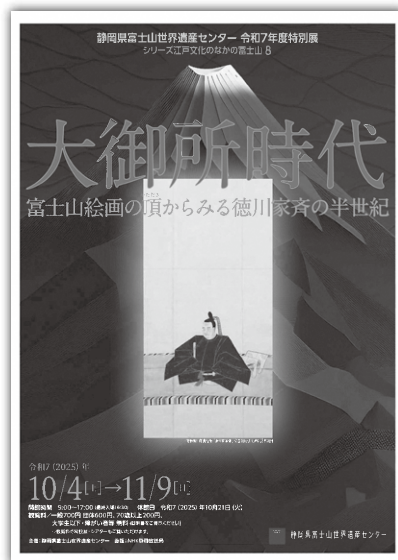
入場者数 6,745人

概 要

徳川家斉は、徳川吉宗の孫一橋治済の子として生まれ、天明元年（1781）嫡子の家基を失った10代将軍家治の養子となり、家治の歿後天明7年（1787）に11代将軍に襲職した。

家斉の将軍在位は、大御所時代を含めると50年を超える。家斉の治世ははじめ寛政の改革が行われるものの次第に奢侈に流れ財政や綱紀が弛緩したと評価されるが、明治に入り幕臣の遺老たちが回顧するように、将軍の御威光が極点に達した輝かしい時代—泰平の世の極点でもあった。

「大御所時代」とも称される家斉の治世には、木挽町狩野家当主の狩野養川院惟信・伊川院栄信・晴川院養信三代や狩野素川彰信といった将軍家の御絵師をつとめた画家たちが新機軸を打ち出すほか、江戸絵画史の嚆矢ともいえる藤岡作太郎『近世絵画史』（明治36年）に「諸派角逐」



と画期されたように、谷文晁、酒井抱一、楸形蕙斎、葛飾北斎ほか民間画壇も百花繚乱の様相を呈する。そのなかで江戸時代に独立した絵画ジャンルとして確立された富士山は、諸ジャンルのなかでも人気を集めるようになった。とりわけ同時代に一世を風靡した谷文晁は、「写山楼」と号し、自他ともに認める“富士山の画家”として国内外に名声を誇った。文晁の壮年期には、将軍家斉の上覧を得た「富士山中真景全図」（当センター蔵）があるとともに、『富嶽三十六景』とも軌を一にする晩年期には、「富士山図屏風」（静岡県立美術館蔵）のような、富士山絵画史に輝く名作を残している。シリーズ「江戸絵画のなかの富士山」の8回目となる本展では、将軍政治のピークを築いた徳川家斉の治世を富士山と関連づけつつ通覧するとともに、富士山を描いた同時代の画家たちの作品を集成し、江戸絵画史のピークを回顧した。

【主な出品作】（会期中展示替え・場面替えあり）

- ・狩野晴川院養信筆 徳川家斉像 公益財団法人徳川記念財団蔵
- ・大場維景原筆・小野正応写・真田幸弘跋 富嶽真図 当センター蔵
- ・谷文晁筆 富士山中真景全図 当センター蔵
- ・谷文晁筆 富士山図屏風 静岡県立美術館蔵
- ・谷文晁筆 松平定信・本居大平賛 富士山図 当センター蔵
- ・酒井抱一筆 武蔵野富士図 公益財団法人徳川記念財団蔵
- ・狩野伊川院栄信筆 富士三保松原図 個人蔵
- ・狩野素川彰信筆 富士越龍・菖蒲夏雨・撫子秋風図 個人蔵
- ・狩野晴川院養信筆 大和名所図屏風 当センター蔵
- ・楸形蕙斎画 江戸名所之絵 公益財団法人東洋文庫蔵
- ・楸形蕙斎画 山水略画式 当センター蔵
- ・葛飾北斎画 東海道名所一覧 当センター蔵
- ・浅草庵市人編 葛飾北斎画 東遊 当センター蔵
- ・船越守愚撰 富士見十三州輿地全図 当センター蔵

【関連イベント】

- ・スペシャルトーク 天下泰平—徳川の平和

日 時：2025年10月5日（日） 13:00－14:30

会 場：富士宮駅前交流センター きらら（富士宮市中央町5－7／0544-22-8111）

※できるだけ公共交通機関にてご来場ください

講 師：徳川家広（公益財団法人徳川記念財団・徳川宗家第19代当主）

松島仁（静岡県富士山世界遺産センター教授／徳川記念財団特別研究員）

- ・公開講座 富士山絵画から読みとく「べらぼう」の時代

日 時：2025年10月19日（日） 14:00－15:00

会 場：静岡県富士山世界遺産センター1階研修室

講 師：松島仁

・ギャラリートーク

日 時：2025年10月4日・5日・19日、11月3日
 会 場：静岡県富士山世界遺産センター企画展示室
 講 師：松島仁

○企画展

「信仰の道から観光の道へ―須山口登山道・御殿場口登山道調査速報展―」

会 期 2025年12月13日（土）～2026年2月1日（日）

観 覧 料 無料（常設展観覧料のみで観覧可）

入場者数 18,953人（期間中の常設展チケット発券枚数）

概 要

静岡県富士山世界遺産センター・裾野市教育委員会・御殿場市教育委員会では、須山口登山道・御殿場口について、令和3年度から同6年度まで共同調査を実施した。今回の企画展はこの共同調査の成果について、皆様に速報展としてご紹介するものである。

【出品資料】

No.	資料名	年代・所蔵者
1	四面女神坐像	平安時代後期（静岡県指定文化財）茶畑浅間神社所蔵
2	宝永噴火記と噴火前の登山道絵図	宝永4年（1707）11月29日裾野市立富士山資料館所蔵
3	深山村絵図	延享元年（1744）裾野市立富士山資料館所蔵
4	富士山須山口略絵図	江戸時代（18世紀頃）裾野市立富士山資料館所蔵
5	旧須山口一合目丹生神社半鐘（写真パネル展示）	寛政2年（1790）5月裾野市消防団須山分団管理
6	富士山中真景全図	江戸時代谷文晁（1763～1840）筆当館所蔵
7	登山導者記（土屋平太夫家）	天保7年（1836）～天保15年（1844）富士山本宮浅間大社所蔵
8	須山口登山道者姓名簿	江戸時代 後期～明治時代裾野市立富士山資料館所蔵
9	山切手	江戸時代 裾野市立富士山資料館所蔵
10	須山口一合目子安大明神	江戸時代 裾野市立富士山資料館所蔵
11	深山村御師	元禄10年（1697）8月裾野市立富士山資料館所蔵
12	御尋ニ付乍恐以書付奉申上候事（砂降以降登山相成難と答え不束の儀に付）	安永5年（1776）7月裾野市立富士山資料館所蔵
13	永代売渡申富士山御師株名前之事（富士山御師株売渡証文）	天明8年（1788）3月裾野市立富士山資料館所蔵
14	神道裁許状	寛政8年（1796）2月14日裾野市立富士山資料館所蔵
15	富士山須山口掟取極連判帳	寛政8年（1796）5月28日裾野市立富士山資料館所蔵
16	村々檀家配札帳	文化13年（1816）10月 裾野市立富士山資料館所蔵
17	一札（須山口導者役銭・浅間嶽役銭に付き）	天保7年（1836）8月 裾野市立富士山資料館所蔵
18	富士山御縁年記録	安政7年（1860）3月～11月 裾野市立富士山資料館所蔵
19	神号并御除地書上帳	慶応4年（1868）8月 裾野市立富士山資料館所蔵
20	富士登山便道南表須山口略図	明治時代後期～大正時代初期 裾野市立富士山資料館所蔵
21	官許富士山東表口便道案内之略図	明治16年（1883）御殿場市教育委員会所蔵
22	御殿場口登山之栞	大正3年（1914）～昭和3年（1928）当館所蔵（小林コレクション）
23	絵葉書「東表口御殿場登山道勝景」	大正7年（1918）～昭和8年（1933）当館所蔵（小林コレクション）
24	絵葉書「秀麗儔なき世界の聖山 富士頂上」	大正7年（1918）～昭和8年（1933）当館所蔵（小林コレクション）
25	御殿場口観光パンフレット	昭和30年代～昭和50年代 当館所蔵（小林コレクション）
26	富士登山休泊所営業規約（複製）	明治27年（1894）御殿場市教育委員会所蔵
27	松屋旅館宿帳	明治45年（1912）～昭和11年（1936）御殿場市教育委員会所蔵

28	金剛杖	御殿場市教育委員会所蔵
29	焼印	福島家所蔵
30	富士山明細図并東海名所図	明治34年(1901)当館所蔵(小林コレクション)
31	富士山東表口新道御殿場停車場図	明治25年(1892)当館所蔵(小林コレクション)
32	富士登山案内図	大正7年(1918)当館所蔵(小林コレクション)
33	富士登山案内之図	明治43年(1910)当館所蔵(小林コレクション)
34	御殿場口開山ポスター	昭和初期か 富士山本宮浅間大社所蔵
35	林良平撮影写真(ガラス乾板より複製)	大正9年(1920)ほか 原資料は林家所蔵
36	福山藩阿部家伯爵阿部正直コレクションのうち、御殿場口登山道関連映像	昭和11年(1936)ほか 原資料は阿部家所蔵
37	強力駕籠	御殿場市教育委員会所蔵
38	大砂走り下山用の砂ソリ	御殿場市教育委員会所蔵

【関連イベント】

・公開講座：センター1階研修室

①令和7年12月21日(日)：午後2時～午後3時30分

内容：須山口登山道・御殿場口登山道調査の概要

講師：大高康正(静岡県富士山世界遺産センター学芸課教授)

②令和8年1月18日(日)：午後2時～午後3時30分

講師：松田香代子(松田民俗研究所代表)

内容：須山地区・御殿場地区の民俗調査の成果

・ギャラリートーク：センター2階企画展示室

令和7年12月21日(日)、令和8年1月3日(土)、1月18日(日)、2月1日(日)

※各日午前10時30分～、午後13時30分～(各回30分程度)



○企画展

第6回 絶景・秀景 富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展

会 期 2026年2月21日～2026年3月22日

観 覧 料 無料（常設展観覧料のみで観覧可）

入場者数 17,232人（期間中の常設展チケット発券枚数）

概 要

静岡県では「富士山の日」の推進運動の一環として、2019年度まで「秀景ふるさと富士写真コンテスト」及び写真展を10回開催した。2020年度からは公益社団法人静岡県観光協会、NHK静岡放送局と共催し、これまでの全国各地の「ふるさと富士（見立て富士）」を撮影した「秀景ふるさと富士」部門に加え、静岡県側から「富士山」を撮影した「絶景しずおか富士山」部門の2部門からなる「絶景・秀景 富士山世界遺産写真コンテスト」を実施してきた。本企画展は6回目の入賞作品展となり、応募総数1,026点の中から、審査委員長沼田早苗氏、審査委員織作峰子氏、西田省三氏が厳選した75点の入選作品を展示した。

【出展作品】

・「絶景しずおか富士山」部門

グランプリ 「未明の雲海富士」増田弘之（撮影場所：小笠山（掛川市））

静岡県観光協会会長賞 「梅香る」稲 朋和（撮影場所：梅の里（裾野市））

NHK 静岡放送局長賞 「輝きの刻」小松啓二（撮影場所：朝霧高原（富士宮市））

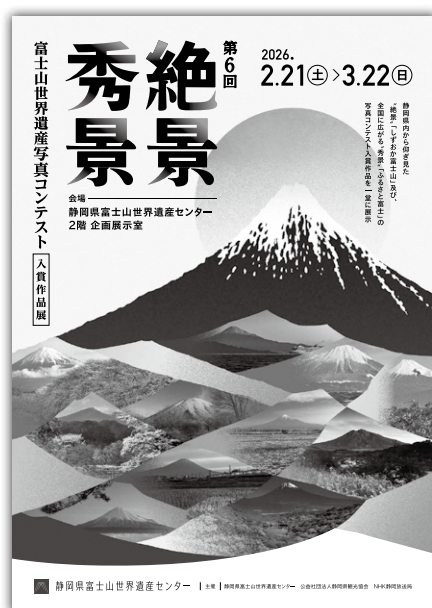
他47作品

・「秀景ふるさと富士」部門

グランプリ 「染まる秋」真田美代子（羊蹄山（蝦夷富士・松前富士）北海道）

静岡県富士山世界遺産センター館長賞 「瀬戸大橋と讃岐富士」島野孝一（飯野山（讃岐富士）香川県）

他23作品



絶景しずおか
富士山部門
グランプリ



秀景ふるさと富士部門グランプリ

● 2-2-3 アトリウム展示活動

静岡県富士山世界遺産センター1階アトリウムでは、様々な機関と連携し、作品展示等を行った。

(1) 富士市

(2025年9月3日～9日)

富士市から見える美しい富士山を広くPRするために毎年開催している「富士山百景写真コンテスト」の上位入賞作品8点を展示した。また、周遊を促すため、富士市内の案内パンフレット等を配架した。



(2) ふじのくに地球環境史ミュージアム

(2025年9月11日～10月3日)

ふじのくに地球環境史ミュージアムの巡回展示の一環として、オオグソクムシの化石標本などを集めた「化石の世界」を展示した。



(3) 富士山世界遺産課（静岡県）

(2025年12月19日～2026年1月13日)

「明治日本の産業革命遺産」が2015年7月に世界文化遺産に登録され、今年度で10周年を迎えたため、10周年を記念したパネルを展示した。



(4) 富士山憲章山梨県推進会議（山梨県）

(2026年1月14日～29日)

富士山憲章事業の一環として「富士山憲章」の普及定着を図り、かつ環境保全に取り組む山梨県富士山レンジャーの活動を周知する機会として「富士山レンジャー写真展」を開催した。



2-2-4 教育旅行受入

1 教育旅行の受入

静岡県富士山世界遺産センターの基本コンセプトのひとつ「楽しく伝える」として、富士山の「楽習」機会の提供“学習支援”が位置付けられている。その一環としてセンターへの教育旅行団体の誘致促進に取り組んでいる。



来館時の説明

2 受入実績概要

2025年度は、下表のとおり、静岡県内を中心に、首都圏、中部圏のほか海外から、延べ147校の学校等団体の来館があった。



5階展望ホールの修学旅行生徒

教育旅行来館数（2025年4月1日～2026年3月31日）

（単位：件）

	静岡県内			県外			※４ 海外
	東部	中部	西部	※１ 首都圏	※２ 中部圏	※３ その他	
保育園 幼稚園	7	0	0	0	0	0	0
小学校	20	17	0	9	0	0	0
中学校	17	1	5	14	1	4	2
高等学校	5	2	1	1	2	4	3
大学	0	4	1	10	1	4	1
専門学校 各種学校	8	1	0	1	0	1	0
小計	57	25	7	35	4	13	6
	89			52			
合計	147						

※1…東京都（16）、山梨県（10）、千葉県（4）、神奈川県（4）、茨城県（1）

※2…愛知県（3）、三重県（1）

※3…大阪府（6）、京都府（2）、大分県（2）、福島県（1）、滋賀県（1）、兵庫県（1）

※4…中国（2）、オーストラリア（2）、アメリカ（1）、ギリシャ（1）

また、2025年度の来館者193,514人（うち、観覧券発券数186,538枚）のうち、小人の入場券発券数20,331枚（全発券数の10.9%）、学生の入場券発券数9,996枚（全発券数の5.4%）であった。その内、教育旅行での受付人数は小人（幼稚園・保育園・小学校・中学校）6,555人（小人発券数の32.2%）、学生（高等学校・大学・大学院・専門学校等）1,617人（学生発券数の16.2%）であった。（※チケット区分 [小人]15歳未満の児童・生徒、[学生]15歳以上の生徒・学生）

おもしろい
おもしろい

山内をまわって答えを完成せよう!

静岡県富士山世界遺産センター

クイズ☆シート

おもしろい
富士山世界遺産センターの中に、写真と同じ
展示物があります。

おもしろい
どこの場所の展示物かを探して、
下の見取図のそれぞれの場所に
書いてある文字をつけて答えを完成せよう!





ふるさと富士

全館には、富士とわたってあるところ、富士はなれた
富士山へのあこがれから、各地に○○富士と
呼ばれる山が400以上あるといわれています。



おもしろい
おもしろい
おもしろい

ふもとから山頂まで

江戸時代の豪華船客の船客で、日本船から
乗る富士山を覗く船客で知られています。ヨーロッパ
にも伝えられ、船客の船客ドキュメントなどの
資料館に展示されています。



富士山と自然

展示物のおおむね文字は、富士山麓から山頂
へ富士山と自然の歴史、385年からの歴史、
約8,000年の歴史でできています。その中で、同じ
展示物はそれぞれ3つありません。



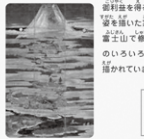
宝永噴火・火山灰のはきとリ棟本

富士山が最後に出たのは約350年前の「宝永
噴火」。富士山麓の町を襲った（噴火前・火山灰）
には、2週間もかかると約4000人火山灰が降りました。



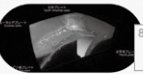
富士山と文化

富士山麓には、神や
仏教が祀る富士山へ
参詣する人々を
迎える文化が
残っています。
富士山で参詣する人々
の文化が
残っています。



日本列島の運動と富士山

日本列島は地中で4枚のプレート（岩盤）が重なって
なり、その場所には、富士山はそのうちの3枚の
プレートが重なっている境界部分に発生した、世界
でも珍しい活断層・活断層の火山です。



フジアサミ

富士山麓に多く生息する「フジアサミ」と
名付られ、高さ20～100cm、葉の長さは30～
70cmに達する。日本のアサミでは最も大きな花を
咲かせる。



ふもとから富士

富士山麓には、富士山（富士山）を格納するグループの山
があり、富士山に似た山頂を形成している。そこに生息
する、富士山に直接つながったのと同じ植物があるとした
ものです。



解答欄

おもしろい
おもしろい
おもしろい

「世界文化遺産」です。

年 組 番 氏 名

[illegible]

● 2-2-5 出前講座

1 富士山世界文化遺産出前講座の概要

富士山の自然や文化、世界遺産についての基礎知識をわかりやすく説明し、富士山についての理解と関心を高め、世界遺産「富士山」の後世継承への気運を高めることを目的として、富士山世界文化遺産出前講座を実施している。小・中学校の総合的な学習の時間や、特別活動における野外活動の事前学習のほか、生涯学習センター等各種団体からの依頼を受けて講師を派遣して講座を実施している。

2 地区・対象別実施数・人数（2025年4月1日～2026年3月31日）

〈一般〉

	地 区				合計
	東部	中部	西部	他	
件数（件）	13	10	6	1	30
人数（人）	433	342	181	21	977

〈学校〉

	地区別件数（件）					人数（人）
	東部	中部	西部	県外	合計	
小学校	5	8	0	0	13	849
中学校	3	0	2	0	5	461
高 校	1	0	0	0	1	24
特別支援	0	0	0	0	0	0
専 門	0	0	0	0	0	0
大 学	0	5	1	2	8	375
合 計	9	13	3	2	27	1,709

3 分野・タイトル別実施数

〈富士山入門〉（担当：美澤主幹・岩渕主査）	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	合計	
ふじさんってどんな山？	0	0	0	1,339
世界遺産の富士山を学ぼう	16	3	0	
合 計	16	3	19	

〈各論 文化：美術〉（担当：松島教授）	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	合計	
富士山と源氏物語―“古典”の政治学	0	0	0	410
日本の美と心―富士山	0	1	1	
徳川将軍と富士山	0	5	5	
海を越えた富士山―外国に遣わされた絵画と工芸	0	2	2	
合 計	0	8	8	

〈各論 自然科学：火山・地質・防災〉（担当：小林教授）	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	合計	
静岡県の活火山を比較してみよう	0	0	0	311
富士山の噴火史と火山防災（ハザードマップの読み方）	3	4	7	
富士山に刻まれた噴火の痕跡を地形から読み解く	0	2	2	
富士山が与えてくれる恵みについて―湧水・地下水	0	1	1	
合 計	3	7	10	

〈各論 歴史：信仰〉（担当：大高教授）	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	合計	
富士山信仰を歴史から学ぶ	4	4	8	380
富士山の参詣曼荼羅の絵解き	0	0	0	
富士山の縁起を知る～赫夜姫	0	1	1	
富士山の「合目」標記の変遷	0	0	0	
合 計	4	5	9	

〈各論 民俗〉(担当：井上准教授)	件数 (件)			人数 (人)
	学校	一般	小計	
富士山のふもとで生きる	0	0	0	155
頂に挑む～登山案内図や登山記にみる富士登山	2	1	3	
富士山の御札	0	0	0	
日本の象徴—富士山	2	0	2	
合 計	4	1	5	

〈各論 文学〉(担当：青木准教授)	件数 (件)			人数 (人)
	学校	一般	合計	
絵とともに楽しむかぐや姫の物語と富士山	0	3	3	91
『竹取物語』と儀式の場としての富士山	0	0	0	
『竹取物語』と富士山のかぐや姫伝承	0	3	3	
『伊勢物語』の旅と富士山	0	0	0	
合 計	0	6	6	

総合計
57件 (2,686人)

● 2-2-6 館内講座

1 館内講座の概要

富士山について多角的に学ぶ機会の提供を目的として、一般の方々を対象に館内講座を実施した。毎月第3日曜日を開催基準日に設定し、センターの研究員や外部の専門家と一般の方々が、富士山を題材に「広く交わる」ことができる講座を開催してきた。

2 実施状況 ※9月は定員20名、11月は定員100名、3月は定員80名、他は定員30名

開催日	講 座 名	講 師	人数 (名)
4月20日 (日)	北斎が描き続けた富士	北斎館 静嘉堂文庫美術館 館長 安村 敏信	36
5月18日 (日)	企画展関連講座 富士野の巻狩＝鎌倉幕府の成立－ 真名本『曾我物語』	学習院大学 名誉教授 神田 龍身	33
6月15日 (日)	「滝ガール」が語る 水の山・富士山の滝の魅力	Subtle Flow 代表 坂崎 絢子	33
7月20日 (日)	企画展関連講座 北陸の活火山 立山・白山の災害と砂防の歴史	富山県立カルデラ砂防博物館 学芸課 学芸課長補佐 福井 幸太郎	28
8月17日 (日)	企画展関連講座 富士砂防事務所が対策をすすめる土砂移動現象－大沢くずれ、 スラッシュ雪崩、そして富士山噴火とリアルタイムハザードマップ	国土交通省中部地方整備局 富士砂防事務所 専門調査官 中戸 真一	28
9月28日 (日)	富士山写真家「mush」と歩く、 富士山御殿場口五合目周辺トレッキング ※富士山五合目周辺で開催する現地講座	富士山写真家 植田 めぐみ	20
10月19日 (日)	特別展関連講座 富士山絵画から読みとく大河ドラマ「べらぼう」の時代－ "大御所時代"と江戸画壇の頂－	静岡県富士山世界遺産センター 学芸課長兼教授 松島 仁	26
11月16日 (日)	富士山の魅力 日本の山の魅力	プロアドベンチャーレーサー 田中 陽希	74
12月21日 (日)	企画展関連講座 須山口登山道・御殿場口登山道調査の概要	静岡県富士山世界遺産センター 学芸課 教授 大高 康正	27
1月18日 (日)	企画展関連講座 須山地区・御殿場地区の民俗調査の成果	松田民俗研究所 代表 松田 香代子	27
2月15日 (日)	国立科学博物館での火山岩標本の採集・保管・展示	国立科学博物館 理学研究部 佐野 貴司	26
3月15日 (日)	富士山のおもしろお天気学 PART 2	ヤマテン 代表取締役 猪熊 隆之	55
		合 計	413



公開講座の様子

3 その他

ア 館長講座（世界遺産講話）

富士山が世界遺産に登録されるまでの経緯や富士山が世界遺産として関係機関にどのように見られているかなど、世界遺産関連の仕事に携わってきた稲葉館長が講師を務める講座を研修室にて開催した。

〈平成7年度実績〉

開催日	講座名	参加者数
7月19日	第一回世界遺産講話 - なぜ富士山は文化遺産なのか -	34人
8月9日	第二回世界遺産講話 - 文化と自然を超えて -	24人
9月27日	第三回世界遺産講話 - インタープリテーションと保存管理 -	20人
合 計		78人

イ 文理融合講座

富士山に関する自然科学から人文社会まで、幅広い分野の知識を統合し、文系と理系の視点から富士山に関連する事象を多角的に学ぶ講座を研修室にて開催した。

〈平成7年度実績〉

開催日	講座名	講 師	参加者数
1月4日	富士山と月	静岡県富士山世界遺産センター 准教授 青木慎一 企画総務課主幹 美澤綾子	26人
3月8日	山に登るとどうなるの？ 富士山の気象と高山病の民俗	静岡県富士山世界遺産センター 准教授 井上卓哉 企画総務課主幹 美澤綾子	17人



● 2-2-7 富士山世界遺産セミナー

1 概要

静岡県富士山世界遺産センターで実施している調査・研究や、富士山に係る調査・研究の成果を広く社会に還元するため、富士山世界遺産セミナーを開催している。2025年度は京都市において16回目のセミナーを開催した。

2 2025年度開催実績

開催日	後援市町 (会場)	テーマ・内容	参加人数
11月9日 (日)	京都市教育委員会 (京都教育文化センター 103会議室)	「世界遺産としての京都と富士山を再考する」 講演①「京都イメージと富士山と国民文化」 高木博志 講演②「江戸期における外国人の京都・富士山の感想」 タイモン・スクリーチ 講演③「富士山の政治史－徳川日本から帝国日本へ－」 松島仁 パネルディスカッション「世界遺産－京都と富士 山を再考する」コーディネーター：植田彩芳子	49人

3 京都市におけるセミナーの様子



ポスター



会場の様子

● 2-2-8 富士山世界遺産コラム

1 概要

2021年度まで発行・ホームページで公開していた『世界遺産ニュースレター』に代わり、2022年度から『富士山世界遺産コラム』をセンター公式ホームページで公開するとともにメールマガジンや公式SNSで配信し、センター研究員の研究成果や富士山に関わる情報を届けている。

2 実績

配信・公開時期(号数)	内 容	担当者
2025年 4 月 (第35号)	名鉄パノラマカー「逆さ富士型」行き先表示板	大高康正 教授
2025年 5 月 (第36号)	富士山に挑んだ外国人列伝② ～ヘンリー・フォールズ～	井上卓哉 准教授
2025年 6 月 (第37号)	海を渡ったふたつの富士山 その一	松島 仁 教授
2025年 7 月 (第38号)	江戸時代に作られた竹取物語絵の世界 —富士山の絵画化をめぐる—	青木慎一 准教授
2025年 8 月 (第39号)	富士山噴火の痕跡を巡る (その6) —富士山東麓を流れ下った最終氷期の火山泥流の行方—	小林 淳 教授
2025年 9 月 (第40号)	富士山は海外からどのように評価されているか —文化と自然の境を超えて—	稲葉信子 館長
2025年10月 (第41号)	海を渡ったふたつの富士山 その二	松島 仁 教授
2025年11月 (第42号)	神戸カモシカクラブ機関誌「Inaka」にみる富士山	井上卓哉 准教授
2025年12月 (第43号)	田子山富士塚の暦応3年(1340)板碑銘文	大高康正 教授
2026年 1 月 (第44号)	竹取物語絵における富士山の絵画化 —めぐろ歴史資料館本の紹介とともに—	青木慎一 准教授
2026年 2 月 (第45号)	富士山噴火の痕跡を巡る (その7) —青木ヶ原溶岩流、三島溶岩流：溶岩流の膨張変形が加わってできた特異な地形—	小林 淳 教授
2026年 3 月 (第46号)	富士山を学ぶということ	岩渕智紀 主査

● 2-2-9 ホームページ・SNS・YouTubeによる情報発信

静岡県富士山世界遺産センターでは、デジタル社会のより一層の推進等、センターを取り巻く環境の激変に対応するべく、インターネットにおける情報発信の手段において、ホームページおよびFacebookのほか、X（旧Twitter）・Instagram・YouTubeを開設し、情報発信力の強化を図っている。

ホームページでは主に、企画展やイベントの情報を、SNSでは主に、イベント開催実績や今日の富士山などタイムリーな出来事を発信した。

HPアドレス：<https://mtfuji-whc.jp/>

Facebook アドレス：<https://www.facebook.com/TheFujisanWHC>

X アドレス：<https://mobile.x.com/Mtfujiwhc3776>

Instagram アドレス：https://www.instagram.com/mtfuji_whc_shizuoka/

YouTube アドレス：<https://www.youtube.com/channel/UCOpJNr22jCPxVNFJPxsxbf8A>

(2026年 3 月31日現在)

	HP	Facebook	X	Instagram	YouTube
アクセス・登録者数	215,978	2,260	1,707	3,057	35



2-2-10 メール会員

1 概要

静岡県富士山世界遺産センターでは、企画展や各種イベント情報等、センターの最新情報をメールマガジンで配信するメール会員の募集・運用を行っている。毎月1日に発信。

会員数1,594人（2026年3月31日現在）

募集アドレス

<https://mtfuji-whc.jp/mailmagazine/>



静岡県富士山世界遺産センター
Mt.FUJI WORLD HERITAGE CENTRE, SHIZUOKA

Enjoy!

メール会員

MAIL

募集集中!

Hello

企画展やイベント、講座情報など旬な話題をメールで配信!
会員限定の特別企画・イベント情報などお得な情報をいち早くゲット!

ご登録はこちら

Step 1 QRコードを読み取ってアクセス

Step 2 メールが立ち上がり空メール送信

Step 3 空メール受付完了メール内のアドレスにアクセス

さらに

Step 4 メールアドレスの入力と、居住地を選択し、送信。

Step 5 入力事項を確認し、登録送信で完了。

登録完了

会員登録の情報が届く!

※送付メールに利用している場合、静岡県富士山世界遺産センターからのメールを受信できないことがあります。
※送信料はお客様ご負担となります。 ※ご登録いただいたメールアドレスは、静岡県富士山世界遺産センターからのご案内に利用いたします。

静岡県富士山世界遺産センター

公開講座＜要事前申込＞

【3月】富士山のおもしろお天気学 PART2

日時＞3月15日(日)14:00～15:30

場所＞富士宮市駅前交流センター「きらら」

2階集会室

講師＞猪熊隆之氏（株式会社ヤマデン代表取締役）



3月公開講座の申し込みを開始しました!

～講師メッセージ～

富士山は登山初心者が多く登る山ですが、気象条件は厳しく、初心者向けの山とは言えません。当日は、富士山の気象リスクについて分かりやすくお伝えします。

また、雲は、空気の状態を私たちに教えてくれる「空気の翻訳者」です。皆様からお送りいただきました写真を元に、私が雲や空の気持ちを“通訳”させていただきます。皆様と雲を通じてお話ができることを楽しみにしています。

【詳細・お申込みは公式HPで】

★申込期間：2月1日～3月11日（定員に達し次第終了）

企画展（2/21～3/22）

第6回 絶景・秀景

富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展



好評開催中!

人類共通の宝として世界遺産に登録された富士山。静岡県では2月23日を「富士山の日」と定めています。

今年も富士山の日を含む期間で、「第6回 絶景・秀景 富士山世界遺産写真コンテスト」の入賞作品展を開催しています。

静岡県内から仰ぎ見た絶景「しずおか富士山」と、全国に広がる秀景「ふるさと富士」の写真コンテスト入賞作品を一堂に展示していますので、ぜひご来場ください。

詳細は【こちら】

2-3 広く交わる

2-3-1 地域貢献・広域連携（富士山ネットワーク推進委員会）

1 概 要

地域貢献、富士山周辺の博物館施設との広域連携を目的に、静岡県富士山世界遺産センターは、2018年度から「富士山ネットワーク推進委員会（以下、富士山ネットワーク）」に加盟している。「富士山ネットワーク」とは富士山を中心に点在する博物館関係施設が、サービスの向上と効果的なPRを目指して1993年に組織したもので、「富士山かぐや姫ミュージアム」「富士山樹空の森」「奇石博物館」「富士サファリパーク」「富士山こどもの国」と当センターの6館園が加盟している。



巡回展の様子（1階アトリウム）

館園長会議	書面決裁で実施。
ぐるりんコンテスト	夏休みに小学生を対象に、作文、絵日記、工作などの作品を募集する「夏休み富士山ぐるりんコンテスト」、同コンテスト審査会、表彰式、入賞作品の各館園での巡回展を行なった。また、入賞作品集を作成した。
PRイベント	各館のイベントに出展し、クイズや体験ブースを設置するPR活動を実施した。
その他	PR方法として、SNSを活用した館園写真掲載等を継続的に行なった。

2 主な活動

月 日	内 容（※定例会は主なもの）	場 所 ・ 備 考
4 月	館園長会議	※書面決済にて実施。
〈定例会〉 4月11日 5月14日 6月13日 7月16日 9月12日 10月17日 11月19日 12月12日 1月16日 2月25日 3月13日	〈定例会内容〉 館園長会議調整、準備他 「ぐるりんコンテスト」の準備他 PRイベントの報告と確認他 「ぐるりんコンテスト」広報について確認他 ※8月実施せず 「ぐるりんコンテスト」審査会他 「ぐるりんコンテスト」表彰式 最終確認 PRイベントの報告、今年度事業の中間報告 次年度事業計画、予算の検討 ぐるりんコンテスト巡回展について確認他 ぐるりんコンテスト作品集作成について他 次年度事業計画の確認他	〈定例会開催場所〉 富士山こどもの国（4月） 富士山樹空の森（5月） 奇石博物館（6月） 富士サファリパーク（7月） 富士山かぐや姫ミュージアム（9月） 奇石博物館（10月） 富士山こどもの国（11月） 富士山かぐや姫ミュージアム（12月） 奇石博物館（1月） 富士山世界遺産センター（2月） 富士山こどもの国（3月）
10月中旬～ 3月中旬	「ぐるりんコンテスト」入賞作品の巡回展示	加盟館園 ※富士山世界遺産センター最終

● 2-3-2 視察受入

1 概 要

令和7年度の自治体の世界遺産及び施設運営関係部署等による視察、観光関係等の企業・各種団体の視察は、令和6年度より総件数は18件減少し44件、総人数も358人減少し536人を受け入れた（令和6年度は62件、894人）。

視察件数は減少したものの、ファムトリップを実施した旅行会社がセンターを行程に含めたツアーを決定するなど、視察による効果が表れている。

（1）件数

（単位：件）

行政・議会							民間	その他 団体	合計
静岡県	県内市町	国	他県	海外 (国)	海外 (自治体)	小計			
4	2	1	9	4	7	27	14	3	44

（2）人数

（単位：人）

行政・議会							民間	その他 団体	合計
静岡県	県内市町	国	他県	海外 (国)	海外 (自治体)	小計			
47	36	6	41	39	79	248	130	158	536

2-4 深く究める

2-4-1 巡礼路調査

1 概 要

静岡県（事務局：静岡県富士山世界遺産センター）では、これまで総合調査が実施されていない登山道及び山麓の構成資産間を結ぶ巡礼路の研究計画を策定するとともに、巡礼路等の調査を実施するため、2015年に考古学、歴史学、民俗学、美術史といった各分野の学識者で構成される「富士山巡礼路調査委員会」を設置した。

2015年度から2018年度にかけては、小山町との連携の下に須走口登山道の調査を実施し、2017年度から2020年度にかけては、富士市及び富士宮市との連携の下に大宮・村山口登山道の調査を実施し、2021年度から2024年度にかけては、裾野市及び御殿場市との連携の下に須山口登山道・御殿場口登山道の調査を実施し、各々報告書を刊行した。

2025年度から2028年度にかけては、富士宮市との連携の下に富士宮口登山道（大宮口新道）の調査を計画し、2025年度は調査期間最初の年度として、調査を開始した。

また2025年度は、前年度まで調査を実施した須山口登山道・御殿場口登山道の成果を広く周知するため、当センター冬季企画展「信仰の道から観光の道へ 須山口登山道・御殿場口登山道調査速報展」を開催し、あわせて関連イベントとして公開講座とギャラリートークを行った。

2 富士山巡礼路調査委員会の構成

職 名	氏 名	専攻分野	職 名
委 員 長	中村羊一郎	民 俗 学	静岡市歴史博物館名誉館長
副委員長	菊池邦彦	日 本 近 世 史	東京都立産業技術高等専門学校名誉教授
委 員	小山泰弘	林 学	長野県林業センター育林部部长
委 員	松田香代子	民 俗 学	松田民俗研究所代表
委 員	山本勉	美術史（仏像）	鎌倉国宝館長

※事務局 静岡県富士山世界遺産センター学芸課（担当 大高康正）

3 事務局及び各市町担当者の業務内容

- （1）富士山巡礼路調査委員会への出席
- （2）調査予定先との連絡調整、現地調査の立会い
- （3）登山道の経路を把握するための現地踏査（GPSデータの取得）
- （4）現地調査先での資料調査（聞き取り調査、資料撮影など）
- （5）調査成果の整理（撮影資料の目録採録、巡礼路調査報告書の分担執筆）

4 2025年度の調査内容（委員出席調査のみ抜粋）

- ・ 6月3日 同年度第一回調査委員会（中村委員長・菊池副委員長・小山委員・山本委員出席、松田委員欠席）
- ・ 6月4日 登山道旧一合目および一合五勺の現地調査（小山委員出席）
- ・ 6月24日・25日 金光図書館所蔵資料の現地調査（菊池副委員長出席）
- ・ 1月9日・10日 富士宮市教育委員会所蔵資料、静岡県富士山世界遺産センター、富士山かぐや姫ミュージアム関連資料の現地調査（菊池副委員長出席）
- ・ 1月14日 民俗分野の調査内容に関する打合せ（松田委員出席）

その他、登山道現地調査の際に参考とする陰影図の製作（（株）フジヤマ委託）、また富士山巡礼路調査調査補助員、富士宮市市担当職員、当センター研究員で、適宜資料調査および登山道の現地調査を実施した。



富士宮市所蔵資料の現地調査
（富士宮市芝川会館）



富士宮口登山道の現地調査
（茗荷岳水源地）

● 2-4-2 研究活動

○松島 仁（まつしま じん）教授

1 著書

- ・『大御所時代 富士山絵画の頂からみる徳川家斉の半世紀』（特別展図録） 松島仁編著 静岡県富士山世界遺産センター発行 2025年10月 単著論文「大御所時代—徳川家斉の半世紀と泰平のイメージ、そして富士山」・図版リスト

2 論文

- ・「近世鳥瞰図への展望—鋳形蕙斎から歌川貞秀へ—」 単著 『富士山学』第6号 雄山閣（静岡県富士山世界遺産センター編集） 2026年3月

3 その他の執筆

- ・「海を渡ったふたつの富士山 その一」 単著 富士山世界遺産コラム vol.37 静岡県富士山世界遺産センター編集・発行（インターネット発信） 2025年6月
- ・「海を渡ったふたつの富士山 その一」 単著 富士山世界遺産コラム vol.41 静岡県富士山世界遺産センター編集・発行（インターネット発信） 2025年10月
- ・「富士山絵画史の構築 2024年度（3年目）の成果から」 単著 『鹿島美術研究』年報第42号別冊 公益財団法人鹿島美術財団編集・発行 2025年11月

4 翻訳

- ・ラドゥ・レカ著「聖なる頂から観測の中心へ—19世紀を中心とする富士山の地図学的変遷—」 単訳 英文による原著を『富士山学』第3号（雄山閣、2026年3月）に掲載したうえ、翻訳を静岡県富士山世界遺産センターホームページに掲載

5 学会発表等

- ・（国際学会）（招待講演）「世界遺産富士山とサクリモンティ」 2025年9月 2025年大阪・関西万博 イタリア館ピエモンテ州ウィーク開催記念シンポジウム「Patrimonio dell'Umanità - viaggio tra i siti Unesco」 イタリア共和国ピエモンテ州
- ・「富士山の政治史—徳川日本から帝国日本へ—」 2025年11月 第16回富士山世界遺産セミナー「世界遺産としての京都と富士山を再考する」 静岡県富士山世界遺産センター（京都市教育委員会後援）
- ・（国際学会）（招待講演）「狩野董川中信筆「富士飛鶴図」と徳川将軍の外交贈答品としての絵画—富士山、あるいは“日本”をめぐるイメージの転回点として—」 2026年1月 国際シンポジウム「幕末外交と日本コレクション」 国立歴史民俗博物館
- ・（招待講演）「将軍と天皇の源氏絵」 2026年2月 第17回源氏絵データベース研究会

6 一般講演

- ・「徳川将軍と富士山」 於駅前交流プラザきらら（富士宮市）2025年4月26日
- ・「徳川将軍と富士山」 於大富地域交流センター（焼津市）2025年6月11日
- ・「徳川将軍と富士山」 於吉田町中央公民館（吉田町）2025年6月25日
- ・「海を越えた富士山—外国に遣わされた絵画と工芸—」 於蒲原生涯学習交流館（静岡市）2025年8月28日
- ・「徳川将軍と富士山」 於富士宮市役所（富士宮市）2025年10月11日

- ・「スペシャルトーク 大御所時代—富士山絵画の頂からみる徳川家斉の半世紀—」（公益財団法人徳川記念財団理事長〈徳川宗家第19代〉徳川家広氏との対談） 於駅前交流プラザきらら 2025年10月4日
- ・「公開講座 富士山絵画からみる「べらぼう」の時代」 於静岡県富士山世界遺産センター 2025年10月19日
- ・「日本の美と心 富士山」 於用宗老人福祉センター（静岡市） 2026年1月31日
- ・「徳川将軍と富士山」 於雄踏協働センター（浜松市） 2026年2月12日
- ・「海を越えた富士山—外国に遣わされた絵画と工芸—」 於北部生涯学習交流館（富士宮市） 2026年2月26日

7 社会的活動

（1）委員・役員

- ・静岡市文化財保護審議会審議委員

（2）非常勤講師・客員教員等

〔特別・共同研究員〕

- ・公益財団法人徳川記念財団 特別研究員
- ・人間文化研究機構 国際日本文化研究センター 共同研究員
- ・人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館 共同研究員

（3）学術交流・研究会の開催

- ・2023年度科学研究費補助金 基盤研究（B）「富士山とナショナリズム：近現代史における神話的シンボルに関する学際的研究」 代表須藤遥子 2023年4月～2027年3月 研究分担者 2025年6月14日摂南大学で研究会開催
- ・公益財団法人徳川記念財団との旧徳川将軍家コレクション共同悉皆調査 2025年4月～2026年3月 月二回調査を実施

（4）他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

- ・適宜対応

8 テレビ・ラジオ・新聞等への出演

〔テレビ〕

- ・『チコちゃんに叱られる！』『なんで日本人は富士山が好きなの？』 NHK 総合 2025年5月2日
- ・「大御所時代展開幕」 NHK 静岡放送局 2025年10月

〔ラジオ〕

- ・ラジオエフ ミュージアムリンク 2025年10月6日
- ・ラジオエフ ミュージアムリンク 2025年11月3日

〔新聞〕

- ・「富士宮市、富士山世界遺産センター10月披露 高校生の視点で作品説明 沼津西高生が文章「楽しむきっかけに」 静岡新聞 8月18日
- ・「江戸文化のピーク」回顧 富士山世界遺産センターで「徳川家斉の半世紀」展 きょう4日から 静岡新聞 2025年10月4日

9 海外学術調査演

- （1）狩野探幽筆「富士三保清見寺図屏風」ほかの調査 サンフランシスコ・アジア美術館 2025年

4月15日

(2) 魚屋北溪画「円相江ノ島富士」ほか刷物の調査 ハーヴァード大学美術館 2025年4月17日

(3) 狩野探幽筆「富士図」一幅（ビゲロー・コレクション）、狩野益信筆「富士図」現額装一面（同）、狩野周信筆「富士三保清見寺図」一幅（同）、谷文晁筆「四季富士図」四幅対（同）、狩野勝川院雅信筆「富士筑波図屏風」六曲一双（フェノロサ-ワールド・コレクション）ほかの調査 ポストン美術館 2025年4月18日

(4) 岳亭春信による「刷物帖」の調査 ニューヨーク・パブリック・ライブラリー 2025年4月22日

(5) 台湾における日本統治期の富士山関係の調査 台北市内 2025年9月9～12日

○小林 淳（こばやし まこと）教授

1 著書(編著・単著)

- ・『企画展「知られざる富士山」アーカイブブック』（早川宗志・小林 淳 編：岡宮久則・小川滋之・岸本年郎・渋谷浩一・中西利典・西岡佑一郎・早川宗志・小林 淳 著、ふじのくに地球環境史ミュージアム発行、p.29、2026年3月10日）

2 論文 なし

3 報告書等 なし

4 その他の執筆

- ・「富士山は稀有な火山ー日本一の高低差を生んだ火山の秘密」（はごろもの風「静岡県富士山世界遺産センター リレーエッセイ「駿河なる一語り継ぎ行かむ不尽の高嶺は」 vol.1、pp. 7、2025年4月）
- ・「富士山噴火の痕跡を巡る（その6）ー富士山東麓を流れ下った最終氷期の火山泥流の行方ー」（富士山世界遺産コラム（Vol. 39）、静岡県富士山世界遺産センター、2025年8月）
- ・「富士山噴火の痕跡を巡る（その7）ー青木ヶ原溶岩流、三島溶岩流：溶岩流の膨張変形が加わってできた特異な地形ー」（富士山世界遺産コラム（Vol. 45）、静岡県富士山世界遺産センター、2026年2月）

5 学会講演

- ・2025年8月30日「静岡県沼津市東大平遺跡の後期旧石器時代以降の植生と火事の歴史」（林 尚樹・山岡拓也・池谷信之・前嶋秀張・高倉 純・小林 淳・林 竜馬・山本正伸・佐瀬 隆・細野 衛：日本第四紀学会2025年大会、島根大学）

6 一般講演

- ・2025年6月12日「富士山の噴火と火山防災ーハザードマップから噴火災害を理解するー」[駒越生涯学習交流館]
- ・2025年7月19日「富士山の噴火と火山防災ーハザードマップから噴火災害を理解するー」[静岡市用宗老人福祉センター]
- ・2025年8月11日 山の日イベント「火山噴火のしくみを学ぼう」（大人向け・子ども向け）[静岡県富士山世界遺産センター]
- ・2025年9月9日「富士山の噴火と火山防災ーハザードマップから噴火災害を理解するー」[静岡県立伊豆総合高校]

- ・2025年10月9日「富士山の噴火と火山防災－富士山を知ることは、自分の身を守ることに繋がる－」
[富士宮市立富士見小学校]
- ・2025年11月2日「富士山に刻まれた噴火の痕跡を地形と地層から読み解く－宝永噴火が残した地形と噴出物－」[一般グループ]
- ・2025年11月18日「富士山の噴火と火山防災－富士山噴火に対する警戒・避難のあり方－」[富士宮防災ボランティアの会]
- ・2026年1月25日「富士山麓の地形・地質からその成り立ちを読み解く－富士川河口域における活断層・噴火ハザード－」[富士市岩松まちづくりセンター]
- ・2026年1月26日「富士山が与えてくれる恵みついて－富士山の地下水・湧水の特徴とその不思議－」[民間企業]
- ・2026年2月17日「富士山の噴火と火山防災－富士山噴火に対する警戒・避難のあり方－」[富士宮市議会産業都市委員会]

7 授業

- ・2025年6月26日 『富士山の噴火史研究とその成果に基づくハザードマップ・防災計画の改定－富士山噴火に対する警戒・避難のあり方－』（東京都立大学都市環境学部地理学教室）

8 社会的活動

(1) 委員・役員

- ・山梨県・静岡県・神奈川県：富士山火山防災対策協議会 構成員（火山専門家）

(2) 非常勤講師・客員教員等

- ・静岡大学防災総合センター 客員教授
- ・東京都立大学都市環境学部 客員教授

(3) 査読 なし

(4) 学術交流・研究会の開催 なし

(5) 他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

- ・2025年5月15日～2026年4月30日 新御殿場市立図書館の郷土資料展示製作に当たっての富士山の噴火史並びに当市の地形地質史等についての地質学・火山学的記載内容の指導 [御殿場市教育委員会]〈展示指導〉
- ・2025年7月30日～ 中部地質調査業協会機関紙「土と岩」[中部地質調査業協会]〈原稿執筆〉
- ・2025年8月14日～27日 火山企画展「～もし富士山が噴火したら～富士山と伊豆東部火山群噴火の歴史と生活への影響」[静岡県東部地域局]〈展示協力〉
- ・2025年8月31日 「これからの風景 世界と出会いなおす6のテーマ」ゲスト・トーク・シリーズ：『描かれた風景から大地の成り立ちを読み解く－火山 絵図に描かれた噴火痕跡を中心に－』[静岡県立美術館]〈講師〉
- ・2025年9月26日 令和7年度 御殿場市自主防災会連合会 視察研修「富士山の噴火史と火山防災－富士山噴火に対する警戒・避難のあり方－」[御殿場市自主防災会連合会]〈講師〉
- ・2025年10月12日 ふじのくに学（富士山学概論）：富士山世界遺産センター、富士山本宮浅間大社（湧玉池）[(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム]〈展示解説・野外実習〉
- ・2025年10月18日 台湾内政部消防署訪問団 視察 [静岡県危機管理部]〈展示解説〉
- ・2025年11月8日 「両輪で走る新朝鮮通信使」訪問団 視察 [静岡県地域外交課]〈展示解説〉

- ・2025年12月13日・20日 富士山火山防災啓発イベント「ぶらり富士山防災さんぽ」[静岡県危機管理部・他]〈講師〉
- ・2026年1月28日 災害時相互応援協定都市 研修「富士山の噴火史と火山防災－富士山噴火（特に爆発的噴火）に対する警戒のあり方－」〈講師・展示解説〉
- ・2026年2月19日 教育環境プログラムフィールドワーク研修「富士山麓、湧玉池の歴史・自然、そして湧き水の特徴」[静岡大学サステナビリティセンター]〈講師・野外実習〉
- ・2026年2月21日・28日 防災まちあるきイベント「ぶらり富士山火山防災さんぽ」[静岡県危機管理部・他]〈講師〉
- ・その他、適宜対応

9 テレビ・ラジオ・新聞等への出演

- ・2025年4月10日 静岡朝日テレビ「とびっきり静岡！たっぷり静岡」：「警報」新設へ もし富士山が噴火したら－空から時速100kmの“噴石”が・・・
- ・2025年7月12日 静岡新聞：日本三霊山 災害の歴史紹介
- ・2025年7月28日 NHK 静岡：富士山など「日本三霊山」の災害を紹介する企画展
- ・2025年8月4日・9月1日 ラジオエフ「Link」：「日本三霊山」火山の崩れ－富士山・立山・白山の災害と砂防－」の紹介
- ・2026年1月2日 テレビ朝日「2026年新春開運スペシャル「霊峰富士山のすべて－春夏秋冬 世界を魅了する絶景と謎」
- ・2026年1月28日 RSK 地域スペシャル・メッセージ「君たちはどう生きるか？－地元就職のすすめ「ふじのくに学」－」
- ・2026年2月21日 NHK 静岡「ニュースしずおか645」：富士山噴火時の影響－実験や見学で学ぶ催し
- ・2026年2月22日 静岡新聞：富士山噴火で起こることは－再現実験、理解を深める

10 海外学術調査 なし

○大高 康正（おおたか やすまさ）教授

1 著書（編著・単著） なし

2 論文

- ・2025年11月「参詣曼荼羅にみる聖地「平泉」の永続性－静岡市立芹沢銈介美術館所蔵「中尊寺参詣曼荼羅」を対象に一」：『國學院雑誌』第126巻第11号、國學院大學

3 報告書等 なし

4 その他の執筆

- ・2025年4月「名鉄パノラマカー「逆さ富士型」行き先表示板」(富士山世界遺産コラム〈Vol.35〉：静岡県富士山世界遺産センターHP
- ・2025年6月「静岡県富士山世界遺産センター図書室「富士山ライブラリー」の概要と取り組み紹介」：専門図書館協議会『専門図書館』321号
- ・2025年12月「田子山富士塚の暦応3年（1340）板碑銘文」(富士山世界遺産コラム〈Vol.43〉：静岡県富士山世界遺産センターHP

- ・2026年3月『富士宮市史』通史編Ⅰ古代・中世 第5章第1節「富士山への信仰登山の広がり」
- ・第5章第3節「富士山縁起と赫夜姫」・第5章第5節「富士曼荼羅図の世界」：富士宮市教育委員会

5 学会講演

- ・2025年11月16日（日）：日本山岳修験学会伊勢学術大会研究報告：「三重県亀山市旧当山派修験福正院と富士先達」

6 一般講演

- ・2025年5月8日（木）浜松市五島協働センター：「富士山の縁起を知る～赫夜姫」
- ・2025年5月14日（水）静岡山岳自然ガイド協会：「富士講の歴史～関東と西国の富士山信仰」
- ・2025年10月4日（土）静岡県富士山世界遺産ガイド講座：「富士山の文化的価値Ⅰ（信仰の対象）」
- ・2025年11月26日（水）静岡県東部地区社会科教員研修：「富士山の参詣曼荼羅の絵解き」
- ・2025年11月29日（土）富士山かぐや姫ミュージアム「東泉院の明治維新一六所良邑とその時代」シンポジウム：「地域の資産家としての六所良邑」
- ・2025年12月21日（日）静岡県富士山世界遺産センター：「須山口登山道・御殿場口登山道調査の概要」
- ・2026年2月10日（火）静岡県賀茂地域局地域課：「富士山信仰を歴史から学ぶ」
- ・2026年2月23日（月）一般社団法人小山町観光協会：「須走口登山道の7つのあれこれ」

7 授業

- ・2025年10月11日（土）・12日（日）ふじのくに地域・大学コンソーシアム講座：「世界文化遺産の富士山（構成資産）」・「世界文化遺産の富士山（信仰）」
- ・2025年10月14日（火）静岡文化芸術大学「静岡学」講座：「世界遺産富士山と富士山信仰」

8 社会的活動

（1）委員・役員

- ・日本山岳修験学会理事
- ・富士市文化財保護審議会審議委員
- ・（仮称）富士宮市立郷土史博物館基本計画策定委員
- ・富士宮市史（中世）執筆員

（2）非常勤講師・客員教員等

- ・放送大学静岡学習センター非常勤講師

（3）査読 なし

（4）学術交流・研究会の開催

- ・2021年4月～2026年3月：日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)「両部神道の伝播と継承に関する総合的研究」（代表：伊藤聡）研究分担者

（5）他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

- ・適宜対応

9 テレビ・ラジオ・新聞等への出演

- ・2026年1月2日（金）テレビ朝日放送「霊峰富士山のすべて」取材対応、出演
 - ・2026年1月5日（月）ラジオエフ「Link」ミュージアムリンク取材対応、出演
 - ・2026年1月28日（水）山陽放送「RSK地域スペシャル メッセージ」取材協力、出演
- その他、適宜対応

10 海外学術調査 なし

○井上 卓哉（いのうえ たくや）准教授

1 著書（編著・単著）

- ・2026年3月『富士宮の歴史 民俗編』市史編さん委員会編（分担執筆：生産と生業・大宮のまちの成立と発展）
- ・2026年3月『富士山学 第6号』静岡県富士山世界遺産センター編（分担執筆：富士山周辺の肉筆鳥瞰図・中村治郎鳥瞰図関係資料の概要）

2 論文 なし

3 報告書等

- ・2026年3月「秋山郷小赤沢集落における栃林の成立要因とその特徴に関する研究」（『苗場山麓ジオパーク研究集録』第8号・小山泰弘との共著）

4 その他の執筆

- ・2025年5月「富士山に挑んだ外国人列伝②～ヘンリー・フォールズ～」(富士山世界遺産コラム〈Vol.36〉：静岡県富士山世界遺産センターHP)
- ・2024年11月「神戸カモシカクラブ機関誌「Inaka」にみる富士山」(富士山世界遺産コラム〈Vol.42〉：静岡県富士山世界遺産センターHP)

5 学会講演

- ・2025年11月2日（日）：日本民俗学会第77回年会：「現在のトチノミ加工と忘れられた栃林の実態～長野県栄村秋山郷の事例から～」
- ・2025年11月16日（日）：第45回日本山岳修験学会伊勢学術大会：「旅館宿帳からみる幕末・明治の富士登山者の動向－大宮町の事例から－」

6 一般講演

- ・2025年6月27日（金）：京都大学大学院人間・環境学研究科「第3回学術越境フォーラム」：「人とモノを繋ぐ仕事～博物館におけるこれまでの研究活動を振り返って～」
- ・2025年7月3日（水）：静岡市西部生涯学習センター：「江戸時代の富士登山」
- ・2025年9月4日（水）：富士宮市立北山小学校：「日本の象徴 富士山～ビジュアル・メディアにみる富士山の姿」
- ・2025年11月30日（土）：富士山かぐや姫ミュージアム公開シンポジウム「東泉院の明治維新～六所良邑とその時代」：「東泉院・六所家の信仰空間－江戸時代と明治時代、ウチとソトに注目して」
- ・2026年3月14日（土）：長野県栄村「第5回栄村の文化と自然報告会」：「命をつなぐ、命を守る－トチノキの立地環境とその特徴」

7 授業

- ・2025年5月21日（水）静岡県立大学「歴史から読み解く静岡学」講座：「頂に挑む～登山案内図や登山記にみる富士登山」
- ・2025年5月21日（水）常葉大学：「頂に挑む～登山案内図や登山記にみる富士登山」
- ・2025年8月3日（日）静岡大学「富士山に行こう！静岡が世界に誇る自然・芸術・産業を学ぶ」サマープログラム：「頂に挑む～登山案内図や登山記にみる富士登山」
- ・2025年10月26日（日）放送大学静岡学習センター：「富士山の歴史と民俗」

8 社会的活動

(1) 委員・役員

- ・静岡県民俗学会理事
- ・日本山岳修験学会理事
- ・東近江市鈴鹿の森の自然及び歴史文化専門調査員
- ・富士宮市史（民俗）執筆員
- ・三島市文化財保護審議委員会委員

(2) 非常勤講師・客員教員等

- ・放送大学

(3) 査読 なし**(4) 学術交流・研究会の開催 なし****(5) 他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応**

- ・適宜対応

9 テレビ・ラジオ・新聞等への出演

- ・静岡新聞2025年12月8日号『幻の鳥瞰図原画を収集』への取材対応
- その他、適宜対応

10 海外学術調査 なし**○青木 慎一（あおき しんいち）准教授****1 著書（編著）**

- ・2026年1月『絵巻で読む『竹取物語』—立教大学図書館コレクションから』武蔵野書院（編著）

2 著書（共著）

- ・2025年10月『「幻の源氏物語絵巻」をもとめて—十七世紀、絵巻の時代と古典復興』思文閣出版（「幻の源氏物語絵巻」の詞書と絵画化—物語全文を書き写すことの意味」を担当）

3 その他の執筆

- ・2025年7月「江戸時代に作られた竹取物語絵の世界—富士山の絵画化をめぐる—」（富士山世界遺産コラム Vol.38、静岡県富士山世界遺産センター）
- ・2026年1月「竹取物語絵における富士山の絵画化—めぐろ歴史資料館本の紹介とともに—」（富士山世界遺産コラム Vol.44、静岡県富士山世界遺産センター）

4 学会講演

- ・2025年11月9日（日）：恵泉女学園大学、「竹取物語絵の情景選択の特徴と図様伝統—への意識—源氏絵・伊勢物語絵の比較とともに」（第16回源氏絵データベース研究会シンポジウム「源氏絵と竹取物語絵、伊勢物語絵、平家物語絵」）

5 一般講演

- ・2025年9月30日（火）：国分寺市立光公民館（オンライン実施）、「絵とともに楽しむかぐや姫の物語と富士山」（富士山世界文化遺産出前講座）
- ・2025年10月8日（水）：宮本区民館、「絵とともに楽しむかぐや姫の物語と富士山」（富士山世界文化遺産出前講座）

- ・2025年10月16日（木）：浜松市立北図書館、「『竹取物語』と富士山のかぐや姫伝承」（富士山世界文化遺産出前講座）
- ・2025年11月26日（水）：富士宮駅前交流センターきらら、「絵とともに楽しむかぐや姫の物語と富士山」（富士山世界文化遺産出前講座）
- ・2026年1月4日（日）：静岡県富士山世界遺産センター、「平安文学・文化の中の富士山と月―『竹取物語』を中心に―」（文理融合講座「富士山と月」）
- ・2026年1月17日（土）：伊豆市立修善寺図書館、「『竹取物語』と富士山のかぐや姫伝承」（富士山世界文化遺産出前講座）
- ・2026年2月7日（土）：焼津市立焼津図書館、「『竹取物語』と富士山のかぐや姫伝承」（富士山世界文化遺産出前講座）

6 授業 なし

7 社会的活動

（1）委員・役員

- ・日本文学協会委員
- ・立教大学日本学研究所特任研究員

（2）非常勤講師・客員教員等 なし

（3）査読 なし

（4）学術交流・研究会の開催

- ・2025年7月13日（土）：早稲田大学、第15回源氏絵データベース研究会国際シンポジウム「源氏物語の源流／源氏物語絵巻の源流」（科学研究費基盤研究（A）「源氏文化ポータルを共有・活用した源氏絵の俯瞰的・創発的研究」）
- ・2026年2月28日（土）：宇治市源氏物語ミュージアム、第17回源氏絵データベース研究会「将軍家の源氏絵、大名家の源氏絵」（科学研究費基盤研究（A）「源氏文化ポータルを共有・活用した源氏絵の俯瞰的・創発的研究」）

（5）他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

- ・適宜対応

8 テレビ・ラジオ・新聞等への出演

- ・2025年5月5日（月）ラジオエフ「Link」 ミュージアムリンク

9 海外学術調査 なし

● 2-4-3 富士山学

1 「富士山学」

「富士山学」とは、歴史学、民俗学といった信仰、絵画、文学といった芸術、さらには文化遺産学、火山学など、人文科学および自然科学の諸分野における富士山に関する研究を学際的に取り扱い、富士山の持つ普遍的価値をより深く知ることを目指す学問領域を指す。

「富士山学」の研究成果を広く一般に周知することを目的に、2020年度より『富士山学』という刊行物にまとめ、各年度ごとに研究員より編集担当を定めて特集号を企画する。

2 2025年度『富士山学』第6号の刊行

空から眺めたような視点で市街地や観光地を描く地図、いわゆる鳥瞰図は、近代の鉄道の発達や、観光地の開発にともなう旅行者の増加とともに、数多く製作され、広く定着した。近年では、こうした鳥瞰図が重要な歴史資料や美術資料としても注目されており、全国の博物館や美術館において鳥瞰図を題材にした企画展が開催されているほか、多様な角度からの研究対象となっている。

こうした鳥瞰図には、富士山が描かれたものも多く、時には方角や位置などを示す重要なアイコンとしても用いられており、人々が抱く富士山イメージの多様性の一端を示すものともいえる。

そこで、『富士山学』第6号では、鳥瞰図と富士山との関係性に注目し、以下の内容から鳥瞰図研究の最前線と、研究の広がりの可能性について示した。

あわせて、令和6年12月をもって退任された遠山敦子前館長による退任記念講演の記録を掲載し、長年の静岡県富士山世界遺産センターへのご尽力の功績を将来の世代へと残す。

『富士山学』第6号（雄山閣、2026年3月刊行）目次

【遠山敦子前館長退任記念講演録】

「富士山とともに～わが人生を語る」（2024年12月17日開催の講演録）

【特集「富士山と鳥瞰図」】

- ・「近世鳥瞰図への展望－歟形蕙斎から歌川貞秀へ－」松島仁（静岡県富士山世界遺産センター）
- ・「交通の発達と鳥瞰図」益田啓一郎（アソシエ地図の資料館）
- ・「大正・昭和初期における伊豆の温泉地の諸相と鳥瞰図」関戸明子（群馬大学）
- ・「吉田初三郎と富士山」大澤真理子（府中市美術館）
- ・「富士山周辺の肉筆鳥瞰図－『ぐるり富士山旅めぐり』展をめぐる－」井上卓哉（静岡県富士山世界遺産センター）
- ・「中村治郎鳥瞰図関係資料の概要」井上卓哉（静岡県富士山世界遺産センター）
- ・「From Sacred Peak to Observation Centre : Cartographic Transformation of Mount Fuji in the Long Nineteenth Century」Radu Leca（香港浸会大学）

● 2-4-4 資料収集

1 資料収集の方針

静岡県富士山世界遺産センターでは、設置目的である富士山の価値の後世継承、富士山学の研究、情報発信拠点としての役割を果たすため、富士山に関する資料を以下の視点から収集している。

- (1) 「信仰の対象」と「芸術の源泉」としての普遍的な価値を証明する資料を収集する。
- (2) 貴重な文化財の滅失や散逸を防ぐとともに、富士山学の研究の充実や教育の普及、集客力の強化に活用する資料を収集する。

2 2025年度収集作品

2025年度はセンターの収蔵方針に基づき、厳正かつ緻密な調査、さらに2025年11月5日の収集専門委員会議を経て下記14件（購入13件、寄贈4件）の資料を収集した。各作品の概要と収集の理由は下記の通りである。

○購入資料一覧

No.	ジャンル	作者	資料名
1	絵画	佐廸平寿	不尽山細見図
2	絵画	狩野洞春 近衛基熙賛	富士山図
3	絵画	土佐光起	富士画賛
4	絵画	浅草庵市人編 葛飾北斎画	東遊
5	絵画	歌川貞秀	歌川貞秀画富士山図一括
6	絵画	作者未詳	富士諸景
7	絵画	鶴澤探山 武者小路実陰賛	富士山図
8	絵画	原在中 外山光実賛	富士山図
9	絵画	作者未詳	竹取物語絵
10	絵画	作者未詳	富士巻狩図小屏風
11	絵画	吉田初三郎	関東震災全地域鳥観図絵
12	絵画	前田虹映	歴代皇陵官国弊大社敬頒大観
13	典籍	マッフエイ	インド誌・インド書簡集・ロヨラ伝

・「不尽山細見図」 佐廸平寿

【作品概要と収集理由】

佐廸平寿は逸名の画人。小泉檀山（1770～1854）門人か。

本作は寛政7年（1795）立原翠軒や藤田幽学ら水戸の彰考館一行とともに富士登山を果たした小泉檀山（斐）のスケッチに基づいた図を貼り交ぜた一巻。

センターの最重要収蔵品のひとつ谷文晁筆「富士山中真景全図」に連なる作品であり、一連の小泉檀山系富士登山図の新出作である。本作の描写内容は、山頂部分にみられるように精緻であるとともに实景に即したものであり、檀山の原本への距離の近さが推測されるとともに、富士登山に精通した人物が関係した可能性を想像させる。かかる本作は美術史のみならず富士山をめぐる登山史、民俗を知るうえでも多大な示唆を与えてくれる。

本作は逸名画人の作ながら、『富岳写真』刊行に遡る文政10年の年紀をもち、檀山系登山図受容の過程を知るうえでも重要である。

そうした本作は、富士登山図そして登山史研究を遂行するための学術資料として、センター資料収集方針で定める収集対象及び分野の「イ「富士山学」を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「富士山図」 狩野洞春・近衛基熙賛

【作品概要と収集理由】

狩野洞春福信は表絵師筆頭の駿河台狩野家の二代目当主。近衛基熙は江戸時代中期の公卿で歌人。摂関家筆頭近衛家の当主で、関白に就任するとともに江戸時代では最初となる太政大臣にのぼる。

本作は画面右下隅に茅屋と桜樹、土坡を置き、中景に紅葉の映える丘の連なりを配し、三峰の外隈による富士山を描く。かかる構図は狩野探幽以来の定型であり、文久2年（1862）遣欧使節が欧州6ヶ国に持参した富士山図においても繰り返される。一幅のうちに春の桜と秋の紅葉を描くが、これは『伊勢物語』にも記された在原業平の和歌にある「時しらぬ」に対応したものである。

本作はセンターの絵画史部門が収集の中核に据えている狩野派の定型による富士山図の代表的作例であるとともに、江戸中期狩野派で名を馳せた狩野洞春福信の優品である。センターは狩野常信筆「秋景富士三保清見寺図」のようなコレクションの核になる作品を収蔵してきたが、本作は上記作品とほぼ近い年代の作品で相互に補完し合う。本作には近衛基熙の揮毫による古歌をとともうが、これについても「秋景富士三保清見寺図」の近衛家熙による賛と対応するものである。

かかる本作は「富士山絵画のメインストリーム」「富士山絵画の定型」の研究を遂行するための学術資料として、センター資料収集方針で定める収集対象及び分野の「イ「富士山学」を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「富士画賛」 土佐光起

【作品概要と収集理由】

土佐光起は江戸時代前期に活躍した、やまと絵系の絵師。

叢樹の背後に屹立する白妙の富士山を描く。精緻な三峰形により描かれた富士山は、土佐派の定型を形づくるもので、光起を継いだ江戸時代の土佐家画人たちによって発展的に継承される。画中には賛者不明ながら「ふしのねはとはてもそらにしられけり 雲よりうへにみゆるしら雪」の古歌が記さ

れる。

本作は富士山図の遺例が少ない土佐光起による富士山図である。精緻な形状による富士山の三峰は、のちの土佐派に継承されていくものであり、土佐派定型の形成を考えるうえで貴重な事例である。

本作は古歌に対応した画面構成をとり、平安時代以来富士山図が担ってきた歌絵としての側面をよく示すとともに、センターが収集してきた江戸の狩野派と対照をなす、京都の朝廷における富士山図の享受を考えるうえで示唆にとむ。

かかる「富士山絵画の定型」の研究を遂行するための学術資料として、センター資料収集方針で定める収集対象及び分野の「イ「富士山学」を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「東遊」 浅草庵市人編・葛飾北斎画

【作品概要と収集理由】

葛屋重三郎から出版された浅草側の狂歌絵本。挿絵は葛飾北斎の筆による。挿絵のうち「待乳山」と「佃白魚網」に富士山が描かれるが、とりわけ富士山の三角形を舟の手縄・水縄に反復させる理知的な構図は、のちの『富嶽三十六景』『上総ノ海路』等において集大成される。画中には葛屋重三郎の耕書堂の店頭風景が描かれ、当時を知りうる重要な資料ともなる。耕書堂の屋号意匠は富士山型に葛の葉であり、江戸後期の文化のなかで、富士山が商標、アイコンとして機能していたことがわかる。

本作は江戸文化における富士山の規範化をよく示す資料であり、「富士山の顕著な普遍的価値を示す歴史資料」としてセンターの収蔵品にふさわしいとともに、北斎の精緻な風景画によって展示効果も期待される。

・「歌川貞秀画富士山図一括」 歌川貞秀 文久3年（1863）

【作品概要と収集理由】

歌川貞秀は江戸時代後期から明治初めにかけて活躍した浮世絵師。初代歌川国貞（三代豊国）の門人。幕末の世相に呼応し、数多くの横浜絵を手掛けるとともに、富士登山に関係した作品も少なからずのこす。

本資料に含まれる三枚続2点は、当センターが収集を継続している徳川家茂上洛東海道物の一つ。本揃物を収蔵することで、江戸時代から明治の富士山を扱った錦絵を“線”としてつなぐことが可能となる。また家茂の上洛と明治天皇の東幸を扱った錦絵を一体的に収集することにより、幕末と明治の政治史を連続相のもとに扱う近年の歴史学の傾向についても美術史方面からアプローチすることができる。

一方、当センターでは富士山を描いた鳥瞰図も収集方針のひとつとしているが、本作を収蔵することで葛飾北斎の「東海道名所一覧」から吉田初三郎らの鳥瞰図を“線”としてつなぐこともできる。

かかる本作は、徳川家茂上洛・明治天皇東幸関係錦絵群そして鳥瞰図研究を遂行するための学術資料として、センター資料収集方針で定める収集対象及び分野の「イ「富士山学」を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「富士諸景」 作者未詳

【作品概要と収集理由】

本作は一卷のうちに富士山を遠望できる各地の風景を配した画卷。江戸時代の富士山図隆盛のきっかけを作り、後世の揃物錦絵にも影響を及ぼした『百富士』の増補版ともいえる刷物である。各図には空白の短冊形が添えられ、文字が書き込めるようになっている。

本作に収められた図のなかには、改変を施したり拡大したりしたものもみられ、本作を生成した狂歌連などの共同体における、『百富士』受容の一面を知ることができ、『富嶽三十六景』に代表されるような江戸時代後期における富士山図隆盛のダイナミズムを垣間見ることができる。

すでにセンターに収蔵されている『百富士』とともに、江戸時代における富士山絵画享受を示す好例であり、「ア富士山の顕著な普遍的価値を示す歴史資料」としてセンターの収蔵品にふさわしい。

・「富士山図」 鶴澤探山・武者小路実陰賛

【作品概要と収集理由】

鶴澤探山は狩野探幽最晩年の弟子。元禄年間に京都に出て、その後、鶴澤家は京都にとどまり、土佐家とともに禁中の画用をつとめる。武者小路実陰は江戸時代中期の公卿で歌人。従一位で大納言を経て准大臣にのぼる。

本作は京都に在住した江戸狩野派系の画家鶴澤探山の富士山図としてめずらしい。外隈による三峰の富士山を中心に画面手前には辺角構図風に土坡を連ね、茅屋や水流を描写するなど、狩野探幽の編み出した定型に応ずる。画中には「あまのはらふじのしば山しばらくも煙たえせず雪もけらくに」の藤原定家『拾遺愚草』所収の古歌が古今伝授保持者の武者小路実陰により揮毫される。

本作はセンターの絵画史部門が収集の中核に据えている狩野派の定型による富士山図を、京都に出て禁裡の画事をつとめた鶴澤派の祖探山が手がけた作例。にじみやかすれを生かしつつ熟達した筆墨法により描写する手法は、探幽の規範にならったもの。現在知られている探山の作品のほとんどは、行年書による老年期の作であり、それ以前の作例となる本作は、美術史的にも価値が高い。霊元院歌壇の中心人物である武者小路実陰による賛をとまう本作は文学史的にも価値が高く、江戸時代における富士山の絵画と和歌をめぐる文化的営為を考えるうえで示唆にとむ。

「富士山絵画のメインストリーム」「富士山絵画の定型」の研究を遂行するための学術資料として、センター資料収集方針で定める収集対象及び分野の「イ「富士山学」を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「富士山図」 原在中・外山光実賛

【作品概要と収集理由】

原在中は江戸時代後期に京都で活躍した画家。円山応挙・石田幽汀の弟子ともいわれる。外山光実（みつみ）は江戸時代後期の公卿で歌人。烏丸光胤の子で外山家に入る。正二位・権中納言にのぼる。和歌に秀で、塙保己一も門に学ぶ。

米法山水風に表された低山を前景と中景に配し、背後に優雅に稜線を広げる富士山を描いた横大幅。富士山の形容や質感、またその中腹に湧く雲は、実景らしく写されながら、外山光実の歌に応じ春の桜と秋の紅葉が同一幅に描かれる。これは歌絵における「時しらぬ」白妙の富士を表す約束事となっており、本作はそうした定型のアレンジとして興味深い作風を示す。画中には当時を代表する歌人として知られ、長澤蘆雪作品など着賛作品も少なくない外山光実による自歌賛も添えられる。

センターでは原在中の真景風の富士山図を寄託品として預かっており、本作はそれと共鳴しつつ、

江戸時代後期京都画壇に一世を風靡した原在中による富士山図の振幅を示す好例といえる。

かかる本作は「富士山絵画の定型」の研究を遂行するための学術資料として、センター資料収集方針で定める収集対象及び分野の「イ「富士山学」を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「竹取物語絵」 作者未詳

【作品概要と収集理由】

本作品は挿絵のみの24図を収め、現存する中では挿絵の数が多い作例と位置づけられる。物語全編を絵画化しており、召しに応じないかぐや姫への対応を促すために帝が翁を呼び出す場面や月へ帰るかぐや姫の真相を確かめるために帝が使いを送る場面など、珍しい図様を含むほか、富士山が絵画化される物語巻末の絵も確認される。

古典文学史と富士山を対象とする研究や教育普及での活用が見込まれ、静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「2 収集方針」の（1）収集の視点「イ 富士山の多様な価値に関連する資料を収集する。」、（2）収集の目的「ア 散逸・滅失等のおそれのある貴重な文化財の保護」、「イ 富士山学の体系化のための調査研究」・「ウ 企画展における情報発信」などに合致する。

・「富士巻狩図小屏風」 作者未詳

【作品概要と収集理由】

本作品は1193年に源頼朝が富士の裾野で行った巻狩の様子を語る『曾我物語』の場面を絵画化した作品であり、小屏風として現存する点で希少である。巻狩は曾我兄弟が工藤祐経を討つ事件とも関連し、画面左側には仁田四郎の大猪狩りや十郎とおぼしき落馬する男などのモチーフが描かれる。画面右側には傘持ちを連れて馬に乗る源頼朝、犬や鹿を追う武者などが描かれ、『夜討曾我』の挿絵との関連も考えられる。

古典文学史と富士山を対象とする研究や教育普及での活用が見込まれ、静岡県富士山世界遺産センター資料収集方針の「2 収集方針」の（1）収集の視点「イ 富士山の多様な価値に関連する資料を収集する。」、（2）収集の目的「ア 散逸・滅失等のおそれのある貴重な文化財の保護」、「イ 富士山学の体系化のための調査研究」・「ウ 企画展における情報発信」などに合致する。

・「関東震災全地域鳥瞰図絵」 吉田初三郎 大正13年（1924）

【作品概要と収集理由】

大阪朝日新聞が大正12年9月1日に発生した関東大震災の1周年に際し、付録として発行した「関東震災全地域鳥瞰図絵」の原画（絹本着色）。関東地方および富士山周辺における地震後の火災被害の状況や、震源近辺の沿岸部を襲う津波を海側から描く。

本図をもとにした印刷物は良く知られるが、原画の存在はこれまで知られておらず、初出の作品である。特筆すべきはそのサイズであり、吉田初三郎の鳥瞰図原画の中では、「伊勢両神宮を中心とせる大鳥瞰図」（128cm×546cm）に次ぐ大作である。

初三郎が手がけた鳥瞰図の印刷物は種類・量とも数多く現存するが、その原画は100点ほどしか確認されておらず、新たな原画が発見される機会は非常に限られている。本図は、近年多様な展開を見せている鳥瞰図研究においても重要な位置を占めるものであり、センター資料収集方針の収集対象に

における「富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」に合致する。

・「歴代皇陵官国幣大社敬頒大観」 前田虹映 昭和15年（1940）

【作品概要と収集理由】

皇紀2600年の記念行事の一環として製作された鳥瞰図原画（絹本着色）。日本列島を大きく歪めるデフォルメを施し、神武天皇の皇居の推定地に創建された橿原神宮を中心に、全国の官幣大社・国幣大社、天皇陵や鉄道路線を示す。

皇紀2600年にあたる昭和15年（1940）は、多様な記念行事が開催されるとともに、橿原神宮や伊勢神宮をはじめとする皇室にゆかりの深い場所への参拝が推奨された。本図もその意図を汲んだものと考えられ、全国を網の目のように走る鉄道路線に加えて、富士山と官幣大社である富士山本宮浅間大社も描かれる。

また、日本の数多くの山岳の中で、富士山・伊吹山・伯耆大山のみが冠雪しており、当時の日本における「冠雪した山」というイメージの広がりを知ることができる。

なお、吉田初三郎に比べて前田虹映の原画で確認されているものは少なく、本資料は初出作品である。

以上の点から、近年多様な展開を見せている鳥瞰図研究においても重要な位置を占めるものであり、センター資料収集方針の収集対象における「富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」に合致する。

・「インド誌・インド書簡集・ロヨラ伝」 マッフエイ 1588年

【作品概要と収集理由】

マッフエイはイエズス会宣教師で歴史家。当時のイエズス会における東アジア宣教の責任者であるヴァリニャーノとマッフエイによる書簡と草稿のやり取りをもとに、ラテン語で書き起こしたもの。全16章のうち、12章と14章において、日本の地理的概況や気候、農林水産物、風習、文化、政治状況などが記される。

日本の風土を取り上げた部分において、日本には非常に山が多く、またそのいずれもが非常に険しいと紹介される。本書における富士山に関する記述は、西洋で刊行された書物に登場するものとして最初期にあたる。この点から、西洋における富士山の受容を考えていくうえで欠かすことができないものとして、センター資料収集方針の収集対象における「富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」に合致する。

○寄贈受入資料一覧

No.	ジャンル	点数	資料名
1	絵画	1点	富士越龍図
2	その他	1点	銅版（官幣大社浅間神社奥宮境内内富士山頂上全図）
3	その他	1点	銅版（富士登山案内図）
4	その他	5冊	今井白峯（籌男）撮影富士山写真集 「富岳」

・「富士越龍図」鈴木其一

【作品概要と収集理由】

本作は富士山と龍を右左に描き分ける。両幅を通じて右上から左下への対角線構図が意識されるなど、理知的な画面構成がとられる。鈴木其一円熟期の優作と位置づけうる作品で、龍や雲の表現は其一の超絶技巧的な筆墨を示す。江戸文化における富士山絵画化の達成度をよく示す資料であり、「ア富士山の顕著な普遍的価値を示す歴史資料」としてセンターの収蔵品にふさわしい。

・「銅版（官幣大社浅間神社奥宮境内内富士山頂上全図）」

【作品概要と収集理由】

富士山浅間大社奥宮をはじめとする富士山頂の施設やお鉢巡りのルート等を示した銅版画の原版。

銅版画の原版が残されるケースは少なく、富士山に関する銅版画の原版としてこれまで確認されているものは、北口本宮富士浅間神社が開版した明治25年の案内図（現在はふじさんミュージアムに寄託）に限られていた。それゆえに、稀少性という点において本資料の資料的価値は高いものといえる。

また、本資料をとおして、近代以降の富士山頂の状況を知ることができるだけでなく、近世における富士山頂の景観との比較が可能となるという点において、センター資料収集方針の収集対象における「富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」に合致する。

・「銅版（富士登山案内図）」

【作品概要と収集理由】

富士山の大宮口・御殿場口・須走口・吉田口の4ルートならびに、そのルートに至る鉄道路線や行程を示した銅版画の原版。

銅版画の原版が残されるケースは少なく、富士山に関する銅版画の原版としてこれまで確認されているものは、北口本宮富士浅間神社が開版した明治25年の案内図（現在はふじさんミュージアムに寄託）に限られていた。それゆえに、稀少性という点において本資料の資料的価値は高いものといえる。

また、本資料をとおして、近代以降の富士山中や山麓の施設の状況を知ることができるだけでなく、近世における富士登山のルートとの比較が可能となるという点において、センター資料収集方針の収集対象における「富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」に合致する。

・「今井白峯（籌男）撮影富士山写真集「富岳」 今井白峯（籌男）」

【作品概要と収集理由】

香淳皇后（昭和天皇の皇后）に献上した写真「霊峰暁の富士」（昭和17年3月22日撮影）をはじめ、今井白峯が富士山周辺で撮影した写真（紙焼き）を全5冊のアルバムに整えたもの。

本アルバムには、富士山とともに、昭和初期の富士山周辺の風景を収めた写真が所収されており、富士山の景観の変遷を知ることができるという点において、センター資料収集方針の収集対象における「富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」に合致する。

3 施設・組織・予算

3-1 施設

1 建物概要

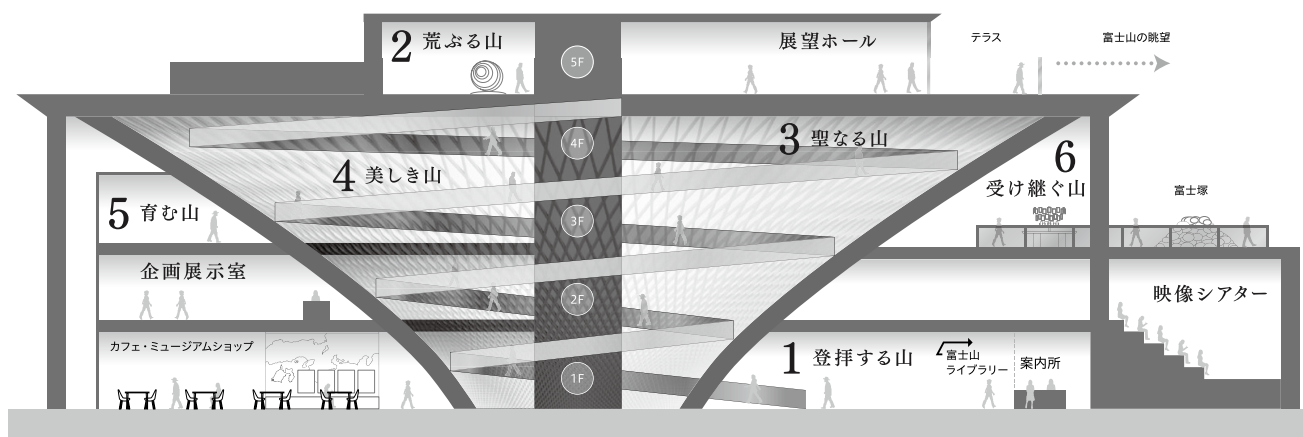
名 称	静岡県富士山世界遺産センター Mt.FUJI WORLD HERITAGE CENTRE, SHIZUOKA
敷地面積	6,086.7㎡
延床面積	3,438.45㎡
構 造	鉄骨造（5階建て）
設 計	株式会社坂茂建築設計
施 工	建 築 佐藤工業・若杉組特定建設工事共同企業体 電 気 住友・三和特定建設工事共同企業体 機 械 須賀・遠藤特定建設工事共同企業体 防音壁 株式会社若杉組 収蔵庫 金剛株式会社 外 構 佐藤工業株式会社静岡営業所 さく井 土屋産業株式会社 サイン 株式会社若杉組
展示設計・施工	株式会社丹青社
西棟左官造作・富士塚制作	挾土 秀平（職人社 秀平組）
スロープ壁面描画	島倉 二千六（アトリエ雲）

富士ヒノキの木格子の外壁を持つ建物は「逆さ富士」を表現し、前面の水盤に映り込むと「富士山」の姿が現れる。水面に映る富士山は、内部に豊富な湧水をたたえた「水の山」としての富士山を象徴的に表している。

富士山の湧水を館内に取り込み、空調熱源として利用した後、水盤に利用し、富士の水の循環を建築的にも表現している。



2 フロアマップ



この施設では、スロープを上りながら富士登山を感じ、本物の富士山に出会い、世界遺産「富士山」について学ぶ、「富士山」を満喫する体験を提供している。

展示については、「富士山の総合的、学際的、国際的な研究活動を展開していく中で、各コーナーが有機的につながりあう展示」「世界からの来館者を感化する展示」をテーマとしている。

3 施設概要

所在地 静岡県富士宮市宮町 5-12

T E L 0544-21-3776

F A X 0544-23-6800

営業時間 9：00～17：00

(7、8月は～18：00、
最終入館は閉館の30分前)

休館日 毎月第3火曜日、施設点検日

観覧料 300円（団体割引あり）※R 8.4～500円に値上げ
70歳以上、大学生以下、障害者等は無料（要証明）

企画展は別途料金を設定

アクセス JR身延線富士宮駅から徒歩 8 分

新東名高速道路新富士ICから約10分

東名高速道路富士ICから約15分



3-3 予算

1 富士山世界遺産センター管理運営事業費（2025年度）

歳出の部

（単位：千円）

項 目		予算額 (当初)	決算額	内 容
究める	調査研究	7,435	6,447	巡礼路調査、分野別研究
	資料収集	83,045	82,343	収蔵品購入
伝える・交わる	教育普及	1,178	1,032	世界遺産セミナー、館内講座、出前講座の実施
	展 示	29,066	23,203	常設展示の更新、企画展の開催
	情報発信	4,166	3,810	ホームページ、年報等様々な情報発信
守る	人材養成	465	181	世界遺産ガイドのスキルアップ講座
維持管理		143,100	135,374	光熱水費、接遇スタッフ、設備運転、清掃、定期点検 ほか
事 務 費		19,145	28,214	非常勤職員人件費、消耗品費、印刷費、職員旅費 ほか
歳 出 計		287,600	280,604	

歳入の部

（単位：千円）

項 目	予算額 (当初)	決算額	内 容
観覧料収入	38,683	38,089	常設展観覧料
その他収入	85,905	83,469	物品貸付料、図書売払収入等
一 般 財 源	163,012	159,046	
歳 入 計	287,600	280,604	

4 資料

4-1 来館者数データ

2025年度月間来館者数推移

(単位：人)

年	月日	全体	観覧券発券数							
			一般	団体	小人	学生	高齢者	その他	サブスク用	計
2025	4月計	17,725	10,360	2,857	1,331	486	1,745	419	0	17,198
2025	5月計	20,438	10,421	2,314	3,294	864	2,159	554	0	19,606
2025	6月計	10,253	5,997	959	921	492	1,241	307	0	9,917
2025	7月計	16,455	8,614	1,713	2,827	999	1,371	441	0	15,965
2025	8月計	21,903	12,694	1,365	3,261	1,697	1,076	1,198	0	21,291
2025	9月計	13,734	8,027	1,448	1,209	880	1,306	444	0	13,314
2025	10月計	18,597	9,657	2,687	2,160	506	2,318	648	0	17,976
2025	11月計	18,324	10,734	1,807	1,243	817	2,627	729	0	17,957
2025	12月計	7,826	5,209	332	606	476	743	242	0	7,608
2026	1月計	15,046	9,975	253	1,182	887	1,372	441	2	14,112
2026	2月計	15,456	8,263	862	1,064	818	1,382	2,553	2	14,944
2026	3月計	17,757	10,456	1,936	1,297	1,114	1,906	431	1	17,141
2025年度累計		193,514	110,407	18,533	20,395	10,036	19,246	8,407	5	187,029

4-2 2025年度の休館日

毎月第三火曜日、施設点検日、年末年始をセンターの休館日としている。

2025年度における休館日は以下のとおりである。

〈毎月第三火曜日〉4月15日、5月20日、6月17日、7月15日、8月19日、9月16日、10月21日、11月18日、12月16日、1月20日、2月17日、3月17日

〈施設点検日〉6月9～13日、12月1～5日

〈年末年始〉12月27日～12月31日

4-3 公式オリジナルグッズ

1 概要

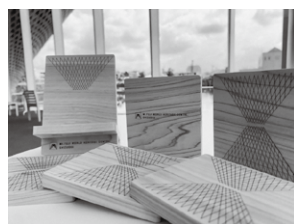
静岡県富士山世界遺産センターでは、観覧の記念やお土産として持ち帰って楽しんでもいただけるよう、センターオリジナルグッズを制作し、ミュージアムショップで販売を行っている。

2 オリジナルグッズ一覧（令和7年3月31日現在）

No	商 品 名	内 容	販売開始時期
1	富士山世界遺産センター クリアファイル	当センターの特徴的な建築物と富士山をプリントしたクリアファイル	平成29年12月
2	富士山世界遺産センター ポストカード（4種）	当センターの特徴的な建築物や富士山をプリントしたポストカード	平成29年12月
3	正統展図録	平成30年度秋季特別展図録	平成30年9月*
4	富士山巡礼路須走口登山道 報告書	富士山須走口登山道の調査成果をまとめた報告書	平成30年*
5	富士すがた	当センター建築物の形を模したオリジナル最中	平成30年
6	谷文晁展図録	令和元年度冬季特別展図録	令和元年12月*
7	公式ハンドブック	当センター常設展の図録	令和2年6月
8	富士ひのき コースター	当センター建築物に使用されている富士ひのきを活用したコースター	令和2年8月
9	富士ひのき スマホスタンド	当センター建築物に使用されている富士ひのきを活用したスマホスタンド兼ペン立て	令和2年8月
10	富士ひのき フォトフレーム (販売停止中)	当センター建物に使用されている富士ひのきを活用したフォトフレーム	令和2年9月
11	ハイブリッド狩野派展図録	令和2年度秋季特別展図録	令和2年10月
12	ポップアップメモ	当センターの特徴的な建築物と富士山をプリントしたメモ帳	令和2年12月
13	マグネットクリップ (販売停止中)	当センターオリジナルふじっぴーをプリントしたマグネットクリップ	令和2年12月
14	富士山巡礼路大宮・村山口 登山道報告書	富士山大宮・村山口登山道の調査成果をまとめた報告書	令和3年4月
15	富士山表口の歴史と信仰展図録 (販売停止中)	令和3年度富士宮市共催展図録	令和3年7月
16	家康＋富士山展図録	令和3年度秋季特別展図録	令和3年10月
17	富士三保清見寺図屏風 一筆箋	センター所蔵品の屏風を用いた一筆箋。	令和3年10月

No	商 品 名	内 容	販売開始時期
18	富士三保清見寺図屏風 クリアファイル	センター所蔵品の屏風を用いたクリアファイル	令和3年10月
19	士たちの富士山展図録	令和4年度秋季特別展図録	令和4年10月
20	谷文晁 富士山真景全図 (1795年) ポストカード 2種	センター所蔵品の絵画を用いたポストカード	令和4年10月
21	公式ハンドブック（英語版）	当センター常設展図録の英語版	令和5年7月
22	富士山 藝術の源泉展図録	令和5年度特別展図録	令和6年1月
23	転回点 幕末から明治へ展図録	令和6年度特別展図録	令和6年9月
24	収蔵品ポストカード（4種）	センター所蔵の美術品を用いたポストカード。	令和7年2月
25	富士山巡礼路須山・御殿場口 報告書	富士山須山・御殿場口登山道の調査成果をまとめた報告書	令和7年4月
26	大御所展図録	令和7年度特別展図録	令和7年10月

※3、4、6の商品は、令和2年6月に受付での販売からミュージアムショップでの販売へ変更した。



4-4 報道実績

1 概 要

静岡県富士山世界遺産センターは開館から8年目を迎え、施設紹介や企画展開催などの内容は継続して、新聞報道や県内ニュースや情報番組によるテレビ報道、旅行雑誌など多方面にて紹介されてきた。

報道実績一覧表【センター独自集計による】

	新聞	テレビ (県内ニュース)	テレビ (その他)	雑誌	合計
2025年4月	5	2	0	0	7
2025年5月	4	1	1	0	6
2025年6月	2	0	0	3	5
2025年7月	9	0	2	1	12
2025年8月	10	0	0	3	13
2025年9月	7	0	0	0	7
2025年10月	12	0	3	1	16
2025年11月	1	0	2	0	3
2025年12月	6	0	0	1	7
2026年1月	1	0	1	1	3
2026年2月	4	1	0	1	6
2026年3月	3	0	0	1	4
合計	64	4	9	12	89

※テレビ（その他）は、県内ニュースを除く県内情報番組及び全国番組での放映回数

世界遺産に理解深め

県富士山世界遺産セ

第9回世界遺産の決定結果が、1日、同センター館に届いた。同日、同センターで開かれた。稲葉信子館長（筑波大学名誉教授）が講師となり、草土山が世界文化遺産となつて登録されたこと、現在の世界遺産の概念について語り、

本ユネスコ国際委員
委員、文化庁文化無形
会世界文化遺産形
は国際文化遺産、同
議文化財分科会
員、同参、同庁
本遺産審査・評価委



燃耗する稲藁飼料

富山県の世界遺産登録
 委員会を務めていた
 富山県の世界遺産登録
 にも関係者の一人し
 て携わっており、7月
 に実施した第1回の開
 話会は、世界遺産条約
 とは何が、富山が世
 界遺産に登録される
 上で何を志すのかを
 話し合っただけであ
 り、今回は「文化・自然
 遺産」と題して開
 話。富山山が自然遺産
 として登録されるの
 しい理由は「自然遺産
 としての開発が進み過
 ぎてくる」との日本側
 の判断があった。特に地
 質的・自然的に富山が
 どの「個々」に人
 が住んでいると、山
 麓の営みがあること
 とがネックになった
 と語った。
 そのうえで、「発展
 途上の世界遺産が少
 ない。文化遺産が少
 ない。文化遺産が少
 ない」というのが、
 富山県が少くないとい
 う特徴があり、19

80年代末には、番
 査はこれまでにい
 った。この中で、
 という議論が始め
 ていた。この期。
 さらに、日本の世界
 遺産条約の締結を契機
 に94年に開催された奈
 良会議で採択された
 「オペレーティング
 に関する奈良キヌメ
 ンツ」奈良文書で、地
 域に根ざし固有の性
 格や成立の多様性を含
 んだ文化の「多様性」を
 認めたことが紹介。
 「文化・自然の連携
 は確かなる。自然は
 美しいと感じ、自然を
 人の文化的視座がある
 こと。この奈良文書
 によって、芸術・歴史
 の価値を持つ建築物や
 考古遺跡だけでなく
 人の生活・労働によ
 り生みだされた場、世界
 遺産と認められよう
 になった。文化遺産

価値を総合的に考える
ことが出来る象徴的な
山」と説明。「富士山
は人が自然と共に生き
てきたところ、生きてい
ることを最も美しく、
力強く語っている。そ
れ」

次回（9月27日）開
催予定。

2025年 8 月14日
岳南朝日新聞

曾我物語の絵画化 辛 泉

世界遺産
センター 企画展で錦絵や屏風

『俺物語』でストーリーをたどる



『彼我足地袖に引られる』



右集に登場し、左集に敵討ちを描いた『曽我物語』

藤正に前かたりつゝ、この活字装丁のつくりが、我物我相は、主人公の物語を、血気な五音で綴る。主眼は、華やかさを主とする。華やかさを主とする。華やかさを主とする。江戸時代に行き、特に金銀の装束で、博識、繪巻、風情のうらた絵図、版本など7月品36種を展示する。物語の構成や画面化の展の明、富士山周辺の関係などを解説した。

第二章「我物我相余だんごり」では、弘化年間（一八四〇）に歌川国貞が絵巻を描いたのが、加えて、江戸の文化（市井）も展示している。江戸の文化（市井）も展示している。江戸の文化（市井）も展示している。

富貴人女で、
大に描
た。い
うが、
ない
に描
の

指した大曾根松陰のハ
リエーシヨンを染しん
でほしい」と来場を呼
び掛けている。

会期は6月8日(日)
まで、5月20日(火)
は休館。常設展の観覧
料で入場できる。

あす4日、11日、25
日、6月8日の各日曜
日には申し込み不要の
ギャラリートークを実

土山を背景に描き、ク
ライマックスを華やか
に演出した。

第2章「自我物語と
富士山の絵画化」では
44213776。

同センター(音05
44213776)。

2025年5月3日
富士ニュース新聞

富士山絵画の魅力伝え

来月4日から世界遺産センターで特別展「大御所時代」



葛修北斎『東海道名所一覽』

[illegible]

開選期間は、毎年5月5日。土山ほかから随々と開かるる頃で、休（休）は、この時代と同日は、年々21日。特別、雇して語る、職無業の職料は、穀0.00。申込みは、10月15日。団体（1人）6日。0.00。70歳以上。いすも申し込は、0.00。大学生以下、同セシオム。書者必料（入給）は、甲の申込み。別金等、要。年齢等。問い合せは、同セシオム。開かるるベシルト（776）。

信仰から観光の道へ

世界遺産
センター



宝永噴火に伴う須山口の豪雪や当時の習俗を示す資料が並ぶ。



茶畑淺間神社に伝わる四面女神坐像

戦前の登山の様子を記録した御厨場口の映像や写真

速報展で成果を紹介

はま口として専務する
る古い集落、
は須山町の二八八〇
〔ちく〕付近に合流す
るかたてで明治16年に
487の支那船「す
ずき」が豊前19年1
月3日、この河口を
通過した。年度は令
3年度から、年度は
2年度から行方、同セ
ンターや飛行機サイ
トで販売している。
このうち、須山口に
なを解説してはいへ
ん。振野市の兼松田

明治元年の開港直後、
運送によるルートの
選定と運送の歴史、
の印刷や保存が良好
なものを解説してい



御殿場口で使われた砂ソリと強力駕籠

2026年1月7日
富士ニュース新聞

2025年9月26日
岳南朝日新聞

4-5 来館者アンケート結果

1 概 要

来館者の動向、評価等をモニタリングするためアンケートを実施した。

2 実施内容

○来 館 日 令和7年10月23日～12月25日

57日間（平日37日間・土日祝20日間）

○総 人 数 527人（男 207人・女 315人・回答しない等 5人）

うち日本語 377人（男 137人・女 237人・回答しない等 3人）

うち英 語 150人（男 70人・女 78人・回答しない等 2人）

3 結果

（日）50代が最も多い30%を占めた。

（英）20代、30代が半数を占め、（日）と比較して若い世代が来館した。

	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
2023年（日）	6 %	11%	11%	21%	27%	17%	7 %
2023年（英）	2 %	23%	32%	18%	11%	10%	4 %
2024年（日）	10%	20%	14%	13%	22%	17%	4 %
2024年（英）	6 %	32%	30%	15%	12%	5 %	0 %
2025年（日）	4 %	15%	10%	13%	30%	22%	6 %
2025年（英）	1 %	21%	34%	19%	11%	9 %	5 %

○国内居住地の区分

	県外	県西部	県中部	県東部
2023年	82%	3 %	7 %	8 %
2024年	75%	6 %	12%	7 %
2025年	78%	6 %	5 %	11%

・県外の内訳

	北海道・東北	関東	東海	北陸・甲信	関西	中国・四国	九州
2023年	5 %	42%	21%	7 %	16%	3 %	6 %
2024年	4 %	46%	19%	3 %	14%	6 %	8 %
2025年	9 %	34%	22%	8 %	20%	4 %	3 %

県別上位 愛知県17%、東京都12%、神奈川県8%

○国外の内訳

アジアからの来館者が半数を占めた一方で、北米の来館者が約3割に増加した。

	アジア	大洋州	北米	中南米	欧州	アフリカ
2023年	72%	7 %	10%	0 %	10%	1 %
2024年	75%	5 %	9 %	1 %	10%	0 %
2025年	53%	3 %	29%	0 %	15%	0 %

国（地域）別上位 米国23%、タイ13%、香港13%

○センターまでの交通手段（複数回答可）

（日）70%の来館者が自家用車で来館していて、鉄道による来館16%が続いている。

（英）自家用車の割合が39%と最も高いがレンタカー利用も含まれていると考えられる。鉄道の割合が（日）と比較して29%と多くなっている。

	新幹線・在来線	路線バス	観光バス	自家用車	徒歩	その他
2023年（日）	18%	1 %	9 %	66%	2 %	4 %
2023年（英）	36%	3 %	11%	42%	7 %	1 %
2024年（日）	26%	3 %	6 %	56%	4 %	5 %
2024年（英）	41%	9 %	3 %	33%	10%	4 %
2025年（日）	16%	2 %	7 %	70%	4 %	1 %
2025年（英）	29%	9 %	6 %	39%	13%	4 %

○来館回数

（日）初めての来館割合が引き続き高い一方、複数来館が14%存在する。

（英）日本語アンケート回答者より「初めて」の割合が高く92%にのぼる。

	初めて	2～3回	4～5回	6回以上
2023年（日）	87%	10%	2 %	1 %
2023年（英）	96%	3 %	1 %	0 %
2024年（日）	87%	12%	1 %	0 %
2024年（英）	93%	4 %	2 %	1 %
2025年（日）	86%	11%	1 %	2 %
2025年（英）	92%	5 %	2 %	1 %

○センターの認知（複数回答可）

（日）ネット（公式HPやSNS）による認知が49%と多いが、知人（口コミ）の割合も3割と高位である。

（英）ネットによる認知が79%と圧倒的となっている。

	新聞	雑誌	ネット	テレビ	知人	その他
2023年（日）	2 %	11%	45%	9 %	32%	20%
2023年（英）	0 %	4 %	77%	3 %	24%	23%
2024年（日）	2 %	10%	51%	10%	29%	20%
2024年（英）	0 %	2 %	85%	4 %	22%	22%
2025年（日）	0 %	11%	49%	5 %	31%	22%
2025年（英）	1 %	1 %	79%	1 %	17%	29%

○来館構成

(日) 家族での来館が61%で最も多くなっている。

(英) 傾向は(日)と似通っているが、「友人」の割合が高い。

	一人	家族	友人グループ	団体	その他
2023年 (日)	11%	58%	21%	8 %	2 %
2023年 (英)	15%	51%	25%	8 %	1 %
2024年 (日)	13%	61%	15%	7 %	4 %
2024年 (英)	13%	44%	38%	3 %	2 %
2025年 (日)	10%	61%	21%	7 %	1 %
2025年 (英)	15%	47%	29%	5 %	4 %

○今回は県内に御宿泊の予定はありますか。

(日) 6割程度で過去三年間推移している。

(英) 日本語アンケート回答者と比べて「有」の割合が高い。

	有	無
2023年 (日)	62%	38%
2023年 (英)	77%	23%
2024年 (日)	59%	41%
2024年 (英)	67%	33%
2025年 (日)	60%	40%
2025年 (英)	75%	25%

○他の立ち寄り場所（複数回答）

(日) 浅間大社が71%と高い比率になっていて、その後に富士宮やきそばの店31%、白糸の滝21%が続いている。

(英) 浅間大社が4割を超えているが、「その他」57%のうち約25%が「特にない」となっていて、4人に1人がセンターを訪れる目的で富士宮に来ている。

	浅間大社	白糸の滝	朝霧高原	富士宮やきそばの店	その他
2023年 (日)	65%	19%	12%	31%	36%
2023年 (英)	46%	17%	3 %	25%	40%
2024年 (日)	68%	20%	8 %	28%	32%
2024年 (英)	40%	21%	4 %	20%	65%
2025年 (日)	71%	21%	9 %	31%	28%
2025年 (英)	41%	29%	2 %	15%	57%

○センターの滞在時間

(日) (英) どちらも 8 割程度の来館者が30分～1 時間半未満の滞在となっている。

	30分未満	30分～1時間未満	1時間～1時間半未満	1時間半～2時間未満	2 時間以上
2023年 (日)	7 %	50%	32%	8 %	3 %
2023年 (英)	2 %	42%	42%	10%	4 %
2024年 (日)	7 %	47%	31%	9 %	6 %
2024年 (英)	5 %	37%	39%	14%	5 %
2025年 (日)	5 %	46%	37%	8 %	4 %
2025年 (英)	6 %	46%	33%	11%	4 %

○センターを訪れた理由 (複数回答)

(日) 4 位は「世界遺産に興味があったから」で18%、5 位は「家族、友人に誘われたため」で13%であった。

(英) 4 位は「設計者に興味があったから」で25%、5 位は「世界遺産に興味があったから」で24%であった。

	1 位	2 位	3 位
2023年 (日)	富士山に興味があったから 59%	建物や外観に興味があったから 35%	常設展示に興味があったから 28%
2023年 (英)	富士山に興味があったから 87%	建物や外観に興味があったから 29%	常設展示に興味があったから 26%
2024年 (日)	富士山に興味があったから 60%	建物や外観に興味があったから 37%	常設展示に興味があったから 32%
2024年 (英)	富士山に興味があったから 84%	建物や外観に興味があったから 25%	常設展示に興味があったから 24%
2025年 (日)	富士山に興味があったから 67%	建物や外観に興味があったから 35%	常設展示に興味があったから 34%
2025年 (英)	富士山に興味があったから 88%	建物や外観に興味があったから 32%	常設展示に興味があったから 29%

○今回の訪問で最も印象に残ったもの

(日) 4 位は「センターの建物や外観」で6 %、5 位は「聖なる山」「美しき山」の4%であった。

(英) 2 位に「美しき山」がランクインしているのが特徴的である。4 位は「聖なる山」で10%、5 位は「荒ぶる山」の9 %であった。

	1 位	2 位	3 位
2023年 (日)	登拝する山 36%	展望ホール 19%	映像シアター 17%
2023年 (英)	登拝する山 28%	美しき山 17%	展望ホール 16%
2024年 (日)	登拝する山 44%	展望ホール 17%	映像シアター 11%
2024年 (英)	登拝する山 30%	美しき山 21%	展望ホール 17%
2025年 (日)	登拝する山 29%	展望ホール 25%	映像シアター 21%
2025年 (英)	登拝する山 24%	美しき山 19%	展望ホール 19%

4-6 施設管理条例・規則

○静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例

平成29年10月24日

条例第35号

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例

(趣旨)

第1条 この条例は、静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 世界遺産富士山（静岡県世界遺産富士山基本条例（平成27年静岡県条例第31号）第2条第1号に規定する世界遺産富士山をいう。以下同じ。）の有する顕著な普遍的価値（同条第3号に規定する顕著な普遍的価値をいう。）についての県民の理解を深めることにより、当該顕著な普遍的価値を後世に引き継ぐこと及び県民文化の向上に寄与することを目的として、静岡県富士山世界遺産センター（以下「センター」という。）を富士宮市に設置する。

(開館時間)

第3条 センターの開館時間は、午前9時から午後5時まで（7月及び8月にあっては、午前9時から午後6時まで）とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(休館日)

第4条 センターの休館日は、次のとおりとする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、臨時に開館し、又は休館することができる。

- (1) 毎月の第3火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その日後においてその日に最も近い日曜日、土曜日又は同法に規定する休日でない日）
- (2) 12月27日から翌年の1月3日までの日

(観覧料)

第5条 センターに展示されている世界遺産富士山に関する資料等を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第6条 知事は、センターに収蔵されている世界遺産富士山に関する資料等について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該資料等の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の規定による承認には、センターの管理のために必要な限度において条件を付することができる。

(特別観覧料)

第7条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(観覧料等の減免)

第8条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は特別観覧料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第9条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(委任)

第10条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、平成29年12月23日から施行する。

附 則（令和7年3月27日条例第19号）

この条例は、令和7年4月1日から施行する。

附 則（令和7年12月25日条例第59号）

この条例は、令和8年4月1日から施行する。

別表第1（第5条関係）

(1) 常設展示

利用区分	観覧料
個人	500円
団体	1人につき 400円

備考

- 1 個人とは、満15歳以上の者であって、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。
- 2 団体とは、20人以上をいう。

3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減免することができる。

(2) 企画展示

所要経費等を勘案して知事とその都度定める額

別表第2（第7条関係）

利用区分	特別観覧料
模写	1点1日につき 2,000円
模造	1点1日につき 2,000円
撮影	1点1回につき 4,000円
熟覧	1点1日につき 1,000円
原板使用	1点1回につき 3,000円

○静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

平成29年10月24日

規則第41号

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに公布する。

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例（平成29年静岡県条例第35号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(入館時間)

第2条 静岡県富士山世界遺産センター（以下「センター」という。）の入館時間は、午前9時から午後4時30分まで（7月及び8月にあっては午前9時から午後5時30分まで）とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧手続)

第3条 常設展示又は企画展示（以下「常設展示等」という。）を観覧しようとする者は、条例第5条の観覧料（以下「観覧料」という。）を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、知事が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

(特別観覧手続)

第4条 条例第6条第1項に規定する特別観覧（以下「特別観覧」という。）をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(観覧料等の減免)

第5条 条例第8条の規定による観覧料等（同条に規定する観覧料等をいう。以下同じ。）の減免（以下「観覧料等の減免」という。）は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

(1) 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳若しくは難病の患者に対する医療等に関する法律（平成26年法律第50号）第7条第4項に規定する医療受給者証の交付又は同法第28条第2項の規定による指定難病にかかっている旨の証明を受けている者（以下「障害者」という。）が常設展示等を観覧するとき 観覧料の全額

(2) 障害者が常設展示等を観覧するときに現に付き添って介護を行っている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示等を観覧するとき 観覧料の全額

(3) 70歳以上の者が常設展示を観覧するとき 観覧料の全額

(4) 70歳以上の者が企画展示を観覧するとき 観覧料の2分の1の額（当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額）

(5) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は大学の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として幼児、児童、生徒、学生等が企画展示を観覧するとき 観覧料の全額

(6) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は大学の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として常設展示等を観覧する幼児、児童、生徒、学生等を引率する者が常設展示等を観覧するとき 観覧料の全額

(7) その他知事が特別の理由があると認めるとき 知事が別に定める額

2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第2号による観覧料等減免承認申請書を知事に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第4号までのいずれかに該当するとき、又は前項第7号に該当する場合であって知事がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

3 知事は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(観覧料等の還付)

第6条 条例第9条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

(1) 観覧又は特別観覧をしようとする者の責めに帰することができない理由により観覧又は特別観覧ができなくなったとき。

(2) その他知事が必要と認めるとき。

2 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧券を知事に提出しなければならない。

3 条例第7条の特別観覧料（以下「特別観覧料」という。）の還付を受けようとする者は、様式第3

号による特別観覧料還付申請書を知事に提出しなければならない。ただし、第1項第1号に掲げる場合は、この限りでない。

(委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、センターの長が別に定める。

附 則

この規則は、平成29年12月23日から施行する。

附 則（令和元年7月1日規則第4号）

- 1 この規則は、不正競争防止法等の一部を改正する法律（平成30年法律第33号）の施行の日（令和元年7月1日）から施行する。
- 2 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により提出されている申請書等は、改正後のそれぞれの規則の相当する様式により提出された申請書等とみなす。
- 3 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（令和3年3月26日規則第5号）

- 1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の規定及び様式により提出されている申請書等は、改正後のそれぞれの規則の相当する規定及び様式により提出されたものとみなす。
- 3 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（令和7年3月27日規則第16号）

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

静岡県富士山世界遺産センター 年報2025.4－2026.3

2026年9月発行

編集・発行 静岡県富士山世界遺産センター

〒418-0067 静岡県富士宮市宮町5-12

T E L 0544-21-3776

F A X 0544-23-6800

印 刷 文光堂印刷株式会社



静岡県富士山世界遺産センター